

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	EBa2001		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教科「国語」の内容と関連付けながら、日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識について、表現活動等も取り入れながら指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許を取得するための必修科目である。国際化・情報化の進展を踏まえ、理解と表現の基礎となる国語の働きと我が国の言語文化について学ぶ。

##### 科目の概要

内容は、小学校学習指導要領国語の〔知識及び技能〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の枠組みを基本としながら、国語科の背景となる日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識の習得を目指す。日常生活・社会生活における具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とするが、適宜ペアやグループによる協議、表現活動を取り入れるとともに、毎回、学修内容の応用を問うミニテストを実施する。【ミニテスト】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付け、その内容を説明することができる。（ミニテストや制作物25%、最終レポート20%）
2. 国語について考え認識を深め、子供に指導する方法を工夫することができる。（ミニテストや制作物25%、最終レポート20%）
3. 国語に関心をもち、国語についての考えを積極的に表現することができる。（ミニテストや制作物25%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

##### -3 学習内容・学習活動の設定

#### 内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～ 【ミニテスト】
2	文字とその指導（平仮名，片仮名，ローマ字），学習指導要領の見方 【ミニテスト】【グループワーク】
3	文字とその指導（漢字） 【ミニテスト】
4	語句，語彙とその指導 【ミニテスト】
5	ことわざ，慣用句，故事成語とその指導 【ミニテスト】
6	文字による表現の実際～新聞を作る 割り付けと下書き～ 【創作、制作】
7	文字による表現の実際～新聞を作る 清書と提出～ 【創作、制作】
8	言葉遣い（敬語）とその指導 【ミニテスト】
9	伝統的な言語文化とその指導～日本の古典，漢詩・漢文，故事成語～
10	音読，朗読，暗唱に関する指導～古典の暗唱～ 【実技】
11	書写の指導～平仮名の基本～ 【ミニテスト】
12	言葉のきまりとその指導～主語・述語，修飾語・被修飾語～ 【ミニテスト】
13	本，読書に関する基礎知識と指導～持参した本を紹介する～ 【グループワーク】
14	絵本の基礎知識～絵本の価値と読み聞かせ～ 【実技】
15	まとめ～言葉の特徴や使い方，我が国の言語文化（〔知識及び技能〕）の内容を振り返る～ 【レポート】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び次回の予告に即して、内容について関心をもち必要に応じて調査しておく[各授業に対して45分]。

【事後学修】返却した小レポートを中心にした復習や、発展的な学修を求める[各授業に対して45分]

#### 評価方法および評価の基準

ミニテストや制作物の内容等75%，最終的な論述レポート25%とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、ミニテストの実施とともに質疑を受け付け、次回授業の冒頭で回答する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』

【推薦書】講義の中で紹介する。

【参考図書】講義の中で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	EBa2002		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

中学校で社会科を指導、副校長、教育行政に携わってきた経験を生かして、主体的、対話的で深い学びにつながる効果的な教科指導の基礎となる内容を演習を取り入れて助言、指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当する。「社会科」が学校教育の中で、担っている役割を認識し、社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

##### 科目の概要

小学校社会科において児童が主体的、対話的で深い学びを実現することの重要性を認識し、指導者として必要な社会科の知識や考え方を幅広く理解する。

##### 授業の方法（ALを含む）

学習指導要領の目標や内容をふまえて、指導者になったつもりで「社会科学習で児童は何ができるようになればよいのか」や「そのためにどのような指導をするべきか」について自分で考えて、その内容を仲間と共有する。

##### 到達目標

- 1 小学校社会科の学習指導要領の変遷や現在の学習指導要領の目標及び内容を把握し、各学年の学習の意義と重要性を理解して説明できる。
- 2 小学校社会科の学習指導要領の目標及び内容のポイントとして理解したことをテスト形式のレポートにして表現することができる。
- 3 課題の成果物を仲間と協力して作成したり、他の仲間が作成した成果物に意欲的に解答したりすることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

- 4 教材研究、学習指導案作成

#### 内容

1	・授業の進め方について ・社会科のあゆみ及び社会科の目標確認
2	・学習指導要領の読み方 ・社会科の学年配列、内容、内容の取扱いについて ・パフォーマンス課題について
3	3, 4年生内容確認 内容 教材の選び方 教科書の使い方 パフォーマンス課題 3, 4年生の指導で大切

	なこと
4	5年生内容確認 教材の見出し方 パフォーマンス課題5年生の指導で大切なこと
5	6年生内容確認 政治的中立性の大切さ パフォーマンス課題6年生の指導で大切なこと
6	グループ発表準備1 グループ及び担当学年、内容分担、班内役割分担及び相談
7	グループ発表準備2 テスト問題作成、解説準備1
8	グループ発表準備3 テスト問題作成、解説準備2
9	グループ発表1 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
10	グループ発表2 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
11	グループ発表3 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
12	グループ発表4 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
13	グループ発表5 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
14	グループ発表6 テスト問題作成全員及び解説資料作成、解説発表、テスト配布、回収等運営を各班内で分担
15	まとめのパフォーマンス課題及び振り返り

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教材について理解を深めておく。毎時60分

【事後学修】授業内容を生かして、自己の課題を見出し、次の課題により良く取り組めるように復習しておく。毎時後60分

#### 評価方法および評価の基準

到達目標1 課題レポート40% 到達目標2 課題レポート30% 到達目標3 発表準備及び発表、他の班の成果物への取組 30% 到達目標1～3を総合的に60%以上到達することで合格とする。

【フィードバック】前回の授業のレポート、振り返りシート等に記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版（平成29年度版）

【参考図書】小学校の社会教科書・指導書等の教材

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

魅力的な授業をつくるためには、指導者がその内容に興味をもち、正確に理解しておくことが大切です。自身の中学校までの社会科（地理、歴史、日本国憲法）等の内容を確実に思い出しておいてください。また、これらの内容にかかわる時事的な話題にも関心をもってください。

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	EBa2003		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験がある者がその経験を活かし、小学校算数科の授業づくりについて講義する。特に新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を紹介する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。算数科の教育法の理解を深め、授業を行う際の基本的な知識と技能を学修する。専門科目のうち、教科に関する科目「算数」であり、2年次の「初等算数教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけたり、中学校数学との関連を図ったりする。

##### 科目の概要

小学校学習指導要領算数編に示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の内容について理解し、具体的な授業づくりの仕方について学ぶ。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりや数学的な見方・考え方の重要性について理解する。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説を中心として、事例研究や問題解決など演習を取り入れた授業を行う。

【グループワーク】【討議・討論】

##### 到達目標

- 1 小学校教員養成の基盤となる算数科の指導内容と指導方法について理解し、説明することができる。
- 2 子ども理解に立った教育課程の編成や指導方法について表現することができる。
- 3 新学習指導要領が目指す授業について述べるとともに、興味関心をもつことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

内容	
1	ガイダンス。～算数を学ぶ価値について考える～
2	算数科の小学校学習指導要領の見方
3	「数と計算」領域における教材と授業づくり（下学年）
4	「数と計算」領域における教材と授業づくり（上学年）
5	「図形」数と計算」領域における教材と授業づくり
6	「測定」領域における教材と授業づくり
7	「変化と関係」領域における教材と授業づくり
8	「データの活用」領域における教材と授業づくり
9	算数科における主体的な学びとは？
10	算数科における対話的な学びとは？
11	算数科における深い学びとは？
12	数学的活動を通じた算数の学び（低学年）
13	数学的活動を通じた算数の学び（中学年）
14	数学的活動を通じた算数の学び（高学年）
15	振り返りとまとめ～算数科の本質を探る～

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文部科学省の小学校学習指導要領解説（算数編）の各内容について、事前に予習し、自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業については、復習することを必須とし、授業でふれた問題について、振り返り、自力解決できるようにしておく。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出（10％／30％）、筆記試験（20％／70％）

到達目標2．課題提出（10％／30％）、筆記試験（20％／70％）

到達目標3．課題提出（10％／30％）、筆記試験（30％／70％）

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（日本文教出版）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	理科		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	EBa2004		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、理科教育に関する基礎的な理論について指導します。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許を取得するための必修科目です。2年次の「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学びます。本科目を履修することにより特に観察、実験技能に関する実践的な指導力が身に付きます。

##### 科目の概要

小学校理科の学習指導要領に示されている、観察、実験などについて、実際に小学校理科で行う観察、実験を行い、学校現場で活用できる観察、実験の技能を習得します。また本授業では、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」の各領域についての基礎的な概念や理論について学修します。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心として、基礎的な観察、実験などの演習やグループワークを取り入れた授業を行います。

##### 到達目標

1. 小学校理科で行う主な観察、実験を行い、安全に配慮した観察、実験の技能を習得することができる。（参加態度、ミニテスト40 / 60%、レポート20 / 40%）
2. 「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などの各領域についての基礎的な概念や理論について理解を深めることができる。（参加態度、ミニテスト20 / 60%、レポート20 / 40%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 5 指導法の工夫（基礎的な知識や技能の習得）

#### 内容

講義を中心に、観察、実験等の演習、グループワークを通して以下の学びを深める。

安全に配慮した基礎的な観察、実験の技能を習得するとともに、授業の位置付けや関心・意欲を喚起するための授業力を身に付ける。

「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」の各領域についての基礎的な概念や理論について理解を深める。

1	(1)理科における観察・実験等のガイダンス (2)全国学力・学習状況調査及び技能の課題
2	3年「身近な自然の観察」虫眼鏡の使い方・観察記録の仕方【実技】【グループワーク】
3	3年「太陽と地面の様子」方位磁針の使い方・太陽の動き【実技】【グループワーク】
4	4年「金属・水・空気と温度」アルコールランプ（ガスコンロ）の使い方【実技】【グループワーク】
5	4年「電気の働き」乾電池の直列・並列つなぎ・検流計の使い方【実技】【グループワーク】
6	5年「物の溶け方」電子天秤・上皿天秤の使い方【実技】【グループワーク】
7	5年「動物の誕生」顕微鏡・双眼実体顕微鏡の使い方【実技】【グループワーク】
8	5年「振り子の運動」振り子の使い方【実技】【グループワーク】
9	6年「てこの規則性」てこ実験器の使い方【実技】【グループワーク】
10	6年「水溶液の性質」リトマス紙の使い方【実技】【グループワーク】
11	6年「電気の利用」手回し発電機、コンデンサーの使い方【実技】【グループワーク】
12	6年「物の燃焼」気体検知管、酸素センサーの使い方【実技】【グループワーク】
13	指導案の書き方・演習
14	指導案の書き方・演習
15	まとめ・振り返り【レポート（知識及び技能）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文部科学省「小学校理科の観察、実験の手引き」の各回の該当ページを印刷し、観察・実験の指導のポイントについて事前に理解し、授業に臨みます。各回の担当班は演示実験ができるように予備実験を行います。（各授業に対して60分、担当班は90分）

【事後学修】各回の観察・実験したことをレポートにまとめ、提出します。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加態度と毎時間提出する観察・実験のレポート、ミニテスト60%、最終的な論述レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】提出されたレポートに記載された質疑等については、本人へ記載の回答をすると共に、翌週以降の授業内で活用（紹介）していきます。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省）平成29年7月

【推薦書】文部科学省HP「小学校理科の観察、実験の手引き」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm))

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

観察・実験の演示実験を行う担当班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨みます。



科目名	理科		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	EBa2004		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、理科教育に関する基礎的な理論について指導します。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目であり、小学校教諭一種免許を取得するための必修科目です。2年次の「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学びます。本科目を履修することにより特に観察、実験技能に関する実践的な指導力が身に付きます。

##### 科目の概要

小学校理科の学習指導要領に示されている、観察、実験などについて、実際に小学校理科で行う観察、実験を行い、学校現場で活用できる観察、実験の技能を習得します。また本授業では、「物質 (粒子)」、「エネルギー」、「生命」、「地球」の各領域についての基礎的な概念や理論について学修します。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義を中心として、基礎的な観察、実験などの演習やグループワークを取り入れた授業を行います。

##### 到達目標

1. 小学校理科で行う主な観察、実験を行い、安全に配慮した観察、実験の技能を習得することができる。(参加態度、ミニテスト40 / 60%、レポート20 / 40%)
2. 「物質 (粒子)」、「エネルギー」、「生命」、「地球」などの各領域についての基礎的な概念や理論について理解を深めることができる。(参加態度、ミニテスト20 / 60%、レポート20 / 40%)

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 5 指導法の工夫 (基礎的な知識や技能の習得)

#### 内容

講義を中心に、観察、実験等の演習、グループワークを通して以下の学びを深める。

安全に配慮した基礎的な観察、実験の技能を習得するとともに、授業の位置付けや関心・意欲を喚起するための授業力を身に付ける。

「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」の各領域についての基礎的な概念や理論について理解を深める。

1	(1)理科における観察・実験等のガイダンス (2)全国学力・学習状況調査及び技能の課題
2	3年「身近な自然の観察」虫眼鏡の使い方・観察記録の仕方【実技】【グループワーク】
3	3年「太陽と地面の様子」方位磁針の使い方・太陽の動き【実技】【グループワーク】
4	4年「金属・水・空気と温度」アルコールランプ（ガスコンロ）の使い方【実技】【グループワーク】
5	4年「電気の働き」乾電池の直列・並列つなぎ・検流計の使い方【実技】【グループワーク】
6	5年「物の溶け方」電子天秤・上皿天秤の使い方【実技】【グループワーク】
7	5年「動物の誕生」顕微鏡・双眼実体顕微鏡の使い方【実技】【グループワーク】
8	5年「振り子の運動」振り子の使い方【実技】【グループワーク】
9	6年「てこの規則性」てこ実験器の使い方【実技】【グループワーク】
10	6年「水溶液の性質」リトマス紙の使い方【実技】【グループワーク】
11	6年「電気の利用」手回し発電機、コンデンサーの使い方【実技】【グループワーク】
12	6年「物の燃焼」気体検知管、酸素センサーの使い方【実技】【グループワーク】
13	指導案の書き方・演習
14	指導案の書き方・演習
15	まとめ・振り返り【レポート（知識及び技能）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文部科学省「小学校理科の観察、実験の手引き」の各回の該当ページを印刷し、観察・実験の指導のポイントについて事前に理解し、授業に臨みます。各回の担当班は演示実験ができるように予備実験を行います。（各授業に対して60分、担当班は90分）

【事後学修】各回の観察・実験したことをレポートにまとめ、提出します。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加態度と毎時間提出する観察・実験のレポート、ミニテスト60%、最終的な論述レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】提出されたレポートに記載された質疑等については、本人へ記載の回答をすると共に、翌週以降の授業内で活用（紹介）していきます。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省）平成29年7月

【推薦書】文部科学省HP「小学校理科の観察、実験の手引き」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm))

【参考図書】塚田昭一編著「新学習指導要領の展開」明治図書出版

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

観察・実験の演示実験を行う担当班は、必ず予備実験を行ってから授業に臨みます。

科目名	生活		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	EBa2005		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、生活科において学習する身近な自然や社会とのかかわり方などについて指導します。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目であり、小学校教諭一種免許及び幼稚園教諭一種免許を取得するための選択必修科目です。「遊び」や「身近な生活」を通して学ぶ生活科は幼児期の教育と極めて密接な関係をもっています。特に「幼児と環境」の科目と関連があり、保育における身近な「環境」との接続を意識しながら学修します。幼児期の発達の段階を理解しつつ遊びの中ではぐくまれていく力にも視点をあて、体験や具体的な活動を通して資質・能力を育てる指導者のかかわりを理解することを通して、実践的な指導力を身に付けます。

##### 科目の概要

幼児期や小学校低学年における遊びの価値や発達の段階について学び、身近な自然や社会とのかかわりのあるおもちゃを作ったり、表現活動を工夫したりして、具体的な体験を通して学ぶ指導法の工夫について学修します。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心として、具体的な体験活動やグループワークを取り入れた授業を行います。

##### 学修目標（＝到達目標）

- 1.生活科における遊びや体験の価値について理解し、その内容を説明することができる。（小レポート20/60%）（最終レポート20/40%）
- 2.生活科における多様な表現方法を理解し、適切な活用について工夫することができる。（小レポート20/60%）（最終レポート20/40%）
- 3.生活科に関心をもち、質の高い気付きが生まれる実践について表現することができる。（参加態度、小レポート20/60%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 5 指導法の工夫（基礎的な知識や技能の習得）

#### 内容

この授業は、フィールドワーク、グループワーク、実習などを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 2年間を見通した生活科の全体計画
2	十文字の春探し(描画法)【フィールドワーク】
3	飼育栽培の指導法及び栽培計画(アサガオ、ミニトマト等)【グループワーク】
4	飼育栽培活動 実際に種や苗を植える(アサガオ、ミニトマト等)【実習】
5	学校生活に関する活動 「学校探検」を行う際の指導の在り方と実習【フィールドワーク】
6	家庭生活に関する活動 「家族の一員とお手伝い」を行う際の指導の在り方と実習【グループワーク】
7	自然や地域行事に関する活動「春、夏、秋、冬探し」を行う際の指導の在り方と実習【創作・制作】
8	身近な自然や物を使って遊びをつくり出す活動 「昔遊び」を行う際の指導の在り方と実習【創作・制作】
9	自分自身の成長を振り返る活動「自分の成長(1年生)」を行う際の指導の在り方と実習【グループワーク】
10	飼育栽培活動「アサガオ、ミニトマト等」の活用を行う際の指導の在り方と実習【実習】
11	公共物や公共施設を利用する際の指導の在り方と実習【フィールドワーク】
12	地域に関する活動「町探検」を行う際の指導の在り方と実習【フィールドワーク】
13	自分自身の成長を振り返る活動「自分の成長(2年生)」を行う際の指導の在り方と実習【グループワーク】
14	飼育栽培活動「動物飼育」を行う際の指導の在り方と実習【グループワーク】
15	生活科のまとめ【レポート(知識及び技能)】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回で扱う内容について、テキストや資料を読み、キーワードや留意点について調べ授業に臨みます。(各授業に対して60分 担当班はプレゼンテーション準備含90分)

【事後学修】各回の内容についてまとめ、レポートとして提出する。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加態度と毎時間提出する小レポート、(60%)、最終的な論述レポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編(平成29年7月 文部科学省)

【推薦書】授業時に指示します。

【参考図書】授業時に指示します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各回の担当班を決め、テーマに関するプレゼンを行います。事前踏査が必要な場合は準備をしっかりと行ってください。

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	EBa2007		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

初等教育機関での造形教育に関わる実務経験が本授業での学習内容及び目的達成に活かされるものである。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、児童教育学科における「教科に関する科目」の選択科目であり、「小学校教諭一種免許状」及び「幼稚園教諭一種免許状」取得者には選択必修科目である。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担う。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものであろうか。

##### 科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得する。

##### 授業の方法（ALを含む）

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学ぶ。

【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

##### 到達目標

- (1)実技を通して指導者となるための幅広い造形的な感性と価値観の多様性、技能について実感を伴いながら理解できる。
- (2)指導者となるための幅広い造形的な発想・構想ができる。
- (3)造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、表現する姿を自ら醸成できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 学修内容・学習活動の設定

#### 内容

- 1 オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
- 2 身近にある材料を使った表現：段ボール1 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】
- 3 身近にある材料を使った表現：段ボール2 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】
- 4 身近にある材料を使った表現：新聞紙1 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創

作・制作】

5 身近にある材料を使った表現：新聞紙2 【実技】【グループワーク】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

6 様々な描画材料を使った表現：絵の具等 【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

7 様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等 【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

8 様々な描画材料を使った表現：複合材 【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

9 身近にある材料を使った表現：自然材 【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

10 身近にある材料を使った表現：人工材 【実技】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

11 粘土を使った表現：土ねんど 【実技】【グループワーク】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

12 粘土を使った表現：合成粘土 【実技】【グループワーク】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

13 身近にある材料を使った表現：光・風・動き等1 【実技】【グループワーク】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

14 身近にある材料を使った表現：光・風・動き等2 【実技】【グループワーク】【レポート(知識)】【レポート(表現)】【創作・制作】

15 まとめ：図画工作について考える 【レポート(知識)】【レポート(表現)】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。(各授業に対して45分)

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。(各授業に対して45分)

#### 評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の(3)を評価する(40%)。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で適宜紹介

【推薦書】授業内で適宜紹介

【参考図書】授業内で適宜紹介

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと=身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	EBa2007		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

初等教育機関での造形教育に関わる実務経験が本授業での学習内容及び目的達成に活かされるものである。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、児童教育学科における「教科に関する科目」の選択科目であり、「小学校教諭一種免許状」及び「幼稚園教諭一種免許状」取得者には選択必修科目である。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担う。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものであろうか。

##### 科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得する。

##### 授業の方法（ALを含む）

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学ぶ。

【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

##### 到達目標

- (1)実技を通して指導者となるための幅広い造形的な感性と価値観の多様性、技能について実感を伴いながら理解できる。
- (2)指導者となるための幅広い造形的な発想・構想ができる。
- (3)造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、表現する姿を自ら醸成できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 学修内容・学習活動の設定

#### 内容

1 オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など

2 身近にある材料を使った表現：段ボール1 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

3 身近にある材料を使った表現：段ボール2 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

4 身近にある材料を使った表現：新聞紙1 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創

作・制作】

5 身近にある材料を使った表現：新聞紙2 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

6 様々な描画材料を使った表現：絵の具等 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

7 様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

8 様々な描画材料を使った表現：複合材 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

9 身近にある材料を使った表現：自然材 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

10 身近にある材料を使った表現：人工材 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

11 粘土を使った表現：土ねんど 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

12 粘土を使った表現：合成粘土 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

13 身近にある材料を使った表現：光・風・動き等1 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

14 身近にある材料を使った表現：光・風・動き等2 【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【創作・制作】

15 まとめ：図画工作について考える 【レポート（知識）】【レポート（表現）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して45分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオにより到達目標の（1）（2）を評価する（60％）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出、ポートフォリオにより到達目標の（3）を評価する（40％）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図る。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で適宜紹介

【推薦書】授業内で適宜紹介

【参考図書】授業内で適宜紹介

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。



科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	EBb1024		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

あり。

#### 実務経験および科目との関連性

学校論、教師論、授業論において、実務経験(1987年から四年間、宮城県中学校教諭、1991年から二年間、東北高校兼任講師)に基づく講義を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、教育職員免許法及び、児童教育学科に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義(卒業必修、免許必修)を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生前期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

講義を中心として行い、学修票(毎時間ごとに)の執筆と提出を必要とします。学修票の内容は、次回の講義内容の修正、協働学修の実現等に使用し、に示す到達目標の達成度を測る指標とします。討論や発表の機会も取り入れることがあります。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

児童教育学科ディプロマポリシーの1(教師としての確かな指導力)及び2(実践的指導力)に該当する講義です。

#### 内容

アクティブラーニングとして、授業中の省察活動、討論、リアクションペーパー、その授業への反映を図ります。

第1回:「教育とは何か(第1章)」

第2回:「学校とは何か(1)(第2章)」

第3回:「学校とは何か(2)(第3章)」

第4回:「こころとからだを育てる(第4章)」

第5回:「よりよく学び、教えるために(第5章)」

第6回:「教育評価とは何か(第6章)」

第7回:「授業の可能性・学校の可能性(第7章)」

第8回:「教師の仕事(第8章)」

第9回:「青年期と教育(第9章)」

第10回:「社会教育と生涯学習(第10章)」

- 第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』（第11章）」  
第12回：「よりよい教育を求めて（第12章）」  
第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」（イギリス産業革命期の少年労働）  
第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」（斎藤喜博と島小の学校づくり）  
第15回：まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という課題を追究し、疑問点をメモして講義に持参します（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を省察し、あらためてテキストを読み、“教育とは何か”という課題に自らの考えをまとめます（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

講義で毎回書いてもらう学修票（80点：省察、協働学修状況の確認）とその内容（20点：基本概念理解の状況、授業前、後の学修状況確認）を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

【フィードバック】学修票の内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（第3版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教職入門A		
担当教員名	塚田 昭一、松岡 敬明、日出間 均		
ナンバリング	EBb2025		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験のある者がその経験を活かし、教職に就くための意義及び教員の役割、職務内容などについて指導します。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の基礎的理解に関する科目」の必修科目であり、小学校一種免許状、幼稚園一種免許状、中高一種免許状（英語）を取得するための必修科目です。本科目では、「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む）」「進路選択に資する各種の機会の提供」などを学修します。教育学概論Aで学ぶ、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」や、学校制度論Aで学ぶ「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」などの科目と関連があります。

##### 科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す1年生（児童教育学科）です。前期に、体験や事前の予習を基に、「教師の仕事とは何か」ということを様々な角度から学修します。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心として、事例研究などグループワークによる演習を取り入れた授業を行います。

##### 到達目標

- 1.教職の基礎理論についての理解を深めることができる。（小レポート20/60%）（最終試験20/40%）
- 2.教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めることができる。（小レポート20/60%）（最終試験10/40%）
- 3.教職に関する新たな課題を創造し、追究することができる。（小レポート20/60%）（最終試験10/40%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- 2 学級経営・学級づくり
- 2 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

#### 内容

講義を中心に、グループディスカッション等を通じて、以下の学びを深める。

教職の意義、教師の役割、職務の内容、研修、サービス等についての学修を通じ、自らの教師像を描く。 自らの能力・適性

について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方途を明らかにする。

1	オリエンテーション（教職の使命とは）	松岡・塚田
2	学校の日、学校の一年	松岡【討議・討論】
3	専門職としての教員と人権教育の推進	松岡【討議・討論】
4	基本的な教育法規	松岡【レポート】
5	教育公務員の服務	松岡【レポート】
6	教育公務員の研修	塚田【討議・討論】
7	学習指導要領について	塚田【レポート】
8	教育課程の編成と実施	塚田【レポート】
9	チームとしての学校の在り方	塚田【ケースメソッド】
10	教材研究と授業づくり	日出間【討議・討論】
11	健康・安全指導について	日出間【討議・討論】
12	生徒指導について	日出間【ケースメソッド】
13	学級経営について	日出間【討議・討論】
14	保護者・地域住民との連携	日出間【ケースメソッド】
15	まとめ	塚田【レポート】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨みます。（各授業に対して60分）

【事後学修】修得した知識や問題解決討議法等で得た知見を記録するとともに、授業で取り上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考察し、レポートにまとめる。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出する小レポート（60%）、最終試験（40%）として、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していきます。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「小学校学習指導要領」（文部科学省 平成29年3月告示）、「小学校学習指導要領解説『総則編』」（文部科学省 平成29年6月）

【推薦書】授業時に指示します。

【参考図書】授業時に指示します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業を受けて理解できない内容はそのままにせず、積極的に質問することが大切です。

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	EBb2026		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無し

#### 実務経験および科目との関連性

無し

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科の教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

##### 科目の概要

教育制度の基本原則、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

##### 授業の方法 (ALを含む)

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

##### 学修目標 (= 到達目標)

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解することができる
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解することができる
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解することができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

-2 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

#### 内容

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系
3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度

5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原理
6	教育行政制度（中央教育行政組織と地方教育行政組織）
7	学校制度と児童生徒（1）就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒（2）懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長（1）職務・任用
10	学校制度と教員・校長（2）服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長（3）研修・その他
12	学校制度と教育課程（学習指導要領・教科書）
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの授業予定単元の予習（60分）

【事後学修】新聞記事の中から教育にかかわるものを探し考察（60分）

#### 評価方法および評価の基準

1 授業ごとの課題提出（30%）      2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解することができる（30%）
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解することができる（30%）
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解することができる（40%）

#### 【フィードバック】

課題のチェックと返却

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育心理学A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	EBb2027		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

教育委員会の常設委員会委員および公立小中学校の学校評議員・学校運営協議会委員としての実務経験を生かし、教師の職務遂行に必要な心理学的知見の解説と活用方法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、児童教育学科の専門科目「初等教育教員養成分野」に配置された必修科目である。心理学の初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。また教員免許取得課程のうちの「教職に関する科目」のうち「教育の基礎理論についての理解を深める科目」である。

##### 科目の概要

小学校教諭課程の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。また、特別な支援を必要とする児童生徒の理解と指導についても扱う。受講生は指導のもとに学修活動に取り組む学生であるが、授業では「教える」「学ばせる」「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育活動や指導職務をとらえる視点を育むことも目指す。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびグループワークを取り入れた授業を行う。

##### 到達目標

到達目標 1．教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解する

到達目標 2．教育心理学的な考え方や知識に基づいて、個々の児童生徒を理解していく手法を考える

到達目標 3．より良い学習活動を展開するための工夫や特別な支援のあり方を、学修内容にもとづいて、具体的に作り出すことができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2：使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

#### 内容

- 1．教育心理学と学校教育
- 2．動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
- 3．動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 4．学習(1)学校教育における学習、条件づけ
- 5．学習(2)認知説と行動説【リアクションペーパー】
- 6．記憶【ディスカッション】

7. メタ認知と学習方略【リアクションペーパー】
8. 授業の過程
9. 知能
10. 教育評価【リアクションペーパー】
11. 発達の原理・原則
12. 児童期の発達、発達課題
13. 学級集団【リアクションペーパー】
14. 発達障害【ディスカッション】
15. 学習のまとめと確認

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

##### 【事前準備】

2～14回 各授業回に示された事項についてテキストを読んで概要を認識する [20分]。15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や技法を適切に活用できるようにしておく [90分]。

##### 【事後学修】

1回 心理学に対する自己の素朴な認識と学修内容の差違を明確にする [20分]。2～3回 やる気を高めるの教師の取り組みや心構えを文章にまとめる [40分]。4～5回 できるようになることの仕組みを文章にまとめる [40分]。6～10回 主体的な学びを実現するための指導について文章にまとめる [40分]。11～14回 学級のなかで児童生徒を多面的に理解する方法を文章にまとめる [40分]。15回 本科目で学び得たものを振り返る。 [20分]

#### 評価方法および評価の基準

授業内課題（リアクションペーパーなど）への取り組み(15%)、まとめの筆記試験(85%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 授業内課題(5% / 15%)、まとめ試験(30% / 85%)

到達目標 2 . 授業内課題(5% / 15%)、まとめ試験(25% / 85%)

到達目標 3 . 授業内課題(5% / 15%)、まとめ試験(30% / 85%)

【フィードバック】授業内課題は授業内で全体に対してコメントする、まとめの筆記試験については必要に応じて評価結果を返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】永江誠司（編著） キーワード教育心理学 北大路書房

【推薦図書】 森敏昭ら（編） 教育心理学キーワード 有斐閣

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	特別な教育的ニーズの理解と支援 A		
担当教員名	岡本 明博、中西 郁		
ナンバリング	EBb3028		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

臨床発達心理士や児童指導員として、児童発達支援センターで障害のある児童の指導に携わった経験を持つ教員が担当し、様々な障害等により特別な支援を必要とする児童の理解と支援について事例を取り入れながら授業を行う。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の教職の基礎理論に関する科目の必修科目で、教員免許状取得のための必修科目である。通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする児童に対し、学習上または生活上の困難を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解することが求められる。

##### 科目の概要

インクルーシブ教育システムの意義理解の上に、発達障害やその他様々な多様性のある児童への支援について基礎的な知識を学ぶとともに、校内支援体制や関係機関との連携について概要を学ぶ。また、特別支援学校の概要について学び、連続性のある学びの場やセンター的機能の活用について学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目は講義による授業を中心に行うが、グループによる討議を取り入れた授業を展開する【討議・討論】。

##### 到達目標

1. LD・ADHD・ASD等の発達障害や、その他の教育的ニーズをもつ児童について説明することができる。
2. 支援に当たっての校内支援体制の構築や関係機関との連携について説明することができる。
3. 特別支援学校の概要を理解し、交流及び共同学習の推進やセンター的機能の活用について説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

-5 指導法の工夫、 -4 子ども理解

#### 内容

講義のみならず、発達障害等の心理的疑似探検等の演習やグループディスカッションなどを行い、学生同士が対話的・主体的な学びを通して、特別な教育的ニーズについて学びを深めていけるよう授業を展開する。

1	今、学校では ~インクルーシブ教育システムと合理的配慮~ （岡本）
2	学習障害の理解と支援 （岡本）【討議・討論】

3	注意欠陥多動性障害の理解と支援（岡本）【討議・討論】
4	自閉症の理解と支援（岡本）【討議・討論】
5	情緒障害の理解と支援（岡本）【討議・討論】
6	軽度知的障害の理解と支援（岡本）【討議・討論】
7	言語の違い、貧困、LGBT等の理解と支援（岡本）【討議・討論】
8	小・中学校における校内支援体制と連携システム（岡本）
9	特別支援学級・通級による指導と自立活動（岡本）
10	保健・福祉・医療機関等との連携（岡本）
11	個別の教育支援計画・個別の指導計画（岡本）
12	特別支援学校教育の実際～特別支援学校に学ぶ子どもたちの理解と支援～（中西）
13	特別支援学校教育の実際～特別支援学校との連携とセンター的機能～（中西）
14	アセスメントの基礎（岡本）
15	自己理解と自己支援力の育成、まとめ（岡本）

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に配付資料・教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し60分）

【事後学習】授業内容については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解が深められるようにするとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加態度と毎回の小レポート50%、レポート試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．小レポート（20%/50%）、レポート試験（20%/50%）

到達目標2．小レポート（15%/50%）、レポート試験（15%/50%）

到達目標3．小レポート（15%/50%）、レポート試験（15%/50%）

#### 【フィードバック】

毎授業の最初に小レポートへのコメントや返答をし、学習理解を深められるようにする。レポート試験後にポイントについて授業で解説する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で使用する資料のパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントアウトするかデータを閲覧できるノートパソコンを持参すること。

【教科書】「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」「同解説総則編」文部科学省

幼稚園教諭免許取得者は「幼稚園教育要領（平成29年告示）」「同解説」文部科学省も準備

【推薦書】「特別支援学校学習指導要領（平成29年4月告示）」「同解説・自立活動編」文部科学省

「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引き-解説とQ&A-」文部科学省

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育課程論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	EBc3029		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

あり。

#### 実務経験および科目との関連性

教育課程編成の実際について経験(87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師)を踏まえて講ずる。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、教育職員免許法及び、児童教育学科に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」(卒業必修、免許必修)について学修するものである。

小学校教員を目指す1年生が後期に受講(2019年入学生までは2年後期)し、これから学ぶ各教科(国語・算数など)、領域(総合的な学習の時間・特別活動など)等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになる。1年生前期で学修する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目である。このあとは、この科目の学修を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくことになる。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかる、教育課程と授業との関わりについての意味がわかる、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解することができる、ことがねらいである。その上で、主体的・能動的に学ぶ力が備わることになる。

講義科目である。学修票の作成を通して、授業前学修内容、授業中学修内容の理解度を確認し、次の授業でそれを紹介する。

児童教育学科ディプロマポリシーの1(教師としての指導力)及び2(実践的指導力)に対応する講義である。

#### 内容

アクティブラーニングとして、討論、省察、リアクションペーパーの作成とその交流を図ります。内容項目は、原案です。初回にアンケートを実施し、その内容を踏まえて修正します。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法—学校教育の現状と課題
3. 学習指導要領と教育課程
4. 新学習指導要領の方向性、改訂のポイント
5. 学校における教育課程編成の手順
6. 組織としての学校 —学校教育目標と学校経営
7. 組織としての学校 —年間授業日数と年間行事計画
8. 組織としての学校 —校務分掌と担任の役割
9. 年間指導計画と学習指導(学級経営プラン)
10. 学校における教師の役割(時間割表作成)

11. 計画的な授業実践（学力向上と授業改善）
12. 特別の教科 道徳（豊かな人間性の育成）
13. 特別活動と学級づくり
14. 総合的な学習の時間と学び方
15. 教育課程のまとめと振り返り

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】教育課程のあり方、教材や授業づくりについて、参考資料をもとに疑問点をまとめ、講義に臨みます（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義をもとに、再度教育課程とは何かという課題についての仮説を再構成し、学校インターンシップの経験を重ね合わせてノートを作成します（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

レポートおよび課題提出80点（基礎概念、歴史・理論に関する理解度確認）、授業への取り組み（学修票の内容を含む）20点（主体的・能動的な学修態度の確認）を総合して評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】学修票の内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】文部科学省『小学校学習指導要領』

その他、使用する資料は配布する。

【推薦書】 授業時に適宜紹介する。

【参考図書】授業時に提示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援学校教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	EBd3037		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

特別支援学校、教育行政に携わってきた経験を持つ教員が担当し、実際に特別支援学校で指導を行ってきた経験を活かして、特別支援学校教育の実際等について講義を中心に指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当する。特別支援学校教育における実践的な指導力の基盤となる基礎・基本について学修する。

##### 科目の概要

本科目は、特別支援教育の基盤である特別支援学校教育について理解を深めていく。そのために、特別支援学校教育の現状等の概要について理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童等の障害の基礎的な理解や、障害児教育の歴史等について学修する。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、授業ごとにミニテスト、レポート等の課題を課し、授業内容の理解を深めながら授業を行う。

##### 学修目標（＝到達目標）

1. 特別支援学校教育の対象となる障害、教育内容・方法等について理解し、特別支援学校教育の概要等について説明することができる。

2. 特別支援学校教育の基本的知識を習得し、障害特性に応じた指導計画を作成することができる。

3. 特別支援学校教育の基本的な指導方法を身に付けるとともに、児童の関心・意欲を喚起する指導を行うことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 教材研究、学習指導案作成      -4 子ども理解      -3 主体的・継続的学習

#### 内容

1	特別支援学校教育の概要
2	視覚障害教育の概要と歴史
3	聴覚障害教育の概要と歴史
4	知的障害教育の概要
5	知的障害教育の歴史
6	肢体不自由教育の概要と歴史

7	病弱教育の概要と歴史
8	視覚障害のある子どもの教育支援
9	聴覚障害、言語障害のある子どもの教育支援
10	知的障害のある子どもの教育支援～知的障害教育の教科の指導～
11	知的障害のある子どもの教育支援～各教科等を合わせた指導～
12	肢体不自由のある子どもの教育支援
13	病弱・身体虚弱のある子どもの教育支援
14	重度重複障害のある子どもの教育支援
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、学修内容を整理しておく。（各授業に対して90分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業で指示する課題（レポート等）への取り組み（30％）と試験（70％）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10％/30％） 筆記試験（40％/70％）

到達目標2 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

到達目標3 課題提出（10％/30％） 筆記試験（15％/70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・「特別支援教育の基礎」中西 郁 他著 大学図書出版

・「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

【推薦書】・「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省

【参考図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司、奈倉 道明		
ナンバリング	EBd4048		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員や医師が実務経験を基に学校場面で活用できる指導方法について講義する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の選択科目であり、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目である。「知的障害教育概論」「知的障害教育課程論」と関連し、知的障害教育の前提となる心理・生理・病理の知識を深める。さらに、知的障害児が抱える困難とその背景を理解することで、有効な指導の手だてを考える一助となる知識を習得する。この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

##### 科目の概要

人の知的活動に関わる神経メカニズムについて解説し、脳損傷によって生じるさまざまな知的障害との関連について知識を深める。さらに、知的機能を評価する方法を学び、教育的支援等に展開するための基礎を養う。

##### 授業の方法

講義を基本としながら、各時間において、授業内容に関する内容について、意見交換や討論を行う。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

##### 到達目標

1. 知的障害のある児童の心理・生理・病理上の特性や特徴を理解することができる。
2. 知的障害の概要を知り、生活上の困難について具体的な対応をまとめることができる。
3. 知的障害の障害特性を踏まえたかかわりについて考え、具体的な支援について協議することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

- 1 教育活動の組み立て方、 -4 子ども理解 -3 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

#### 内容

1	知的障害児の発達とその特徴 [細谷]
2	知的障害の定義と判定方法 [奈倉]
3	知的障害を来す疾患の病態生理と治療 [奈倉]
4	知的障害のアセスメント [細谷]
5	自閉スペクトラム症の病態生理と治療 [奈倉]
6	注意欠如多動症の病態生理と治療 [奈倉]
7	知的障害児の心理的特徴（感覚・知覚・運動等） [細谷]
8	知的障害者の心理的特徴（言語・記憶・思考等） [細谷]

9	知的障害に関連する諸障害（自閉症スペクトラム障害） [細谷]
10	知的障害に関連する諸障害（ダウン症） [細谷]
11	知的障害に関連する諸障害（てんかん） [細谷]
12	知的障害の生理・病理に関する総合復習 [奈倉]
13	知能と発達 [細谷]
14	まとめ [細谷]
15	知的障害のある児童生徒の生活 [細谷]

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。（45分）

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。（45分）

#### 評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（40%）と筆記試験（60%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出（20% / 40%）、筆記試験（20% / 60%）

到達目標2．課題提出（10% / 40%）、筆記試験（20% / 60%）

到達目標3．課題提出（10% / 40%）、筆記試験（20% / 60%）

【フィードバック】 提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	松井 雄一、奈倉 道明、中西 郁		
ナンバリング	EBd4049		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の選択科目であり、特別支援学校教員免許状取得の必修科目である。「肢体不自由教育概論」「肢体不自由教育課程論」と関連し、肢体不自由教育の前提となる心理・生理・病理の知識を深める。さらに、肢体不自由児が抱える困難とその背景を理解することで、有効な指導の手だてを考える一助となる知識を習得する。

#### 科目の概要

オムニバス形式の授業で、複数教員が担当する。講義を中心にしながら、各講義の最後には問題演習等を通して理解を深められるようにする。

#### 授業の方法（ALを含む）

写真や図などを使いながら実際に起こる現象と原理を合わせて理解できるように解説する。知識の定着・確認のため、振り返りを行う。また、リアクションペーパーによって得られた質問について回答を行う。講義内容に関連した実際的な体験を取り入れながら、障害の状態を自分の体に置き換えて考える場面を作ることで学びを深めていく。【リアクションペーパー】【討議・討論】

#### 到達目標

- (1) 肢体不自由の背景にある代表的な疾病について、原因と機序を簡単に説明することができる。
- (2) 肢体不自由児が抱えている身体的な苦しさや難しさについて、共感的に理解できるようになり、必要な支援や配慮について自ら考えることができる。
- (3) 肢体不自由児が示す特有の行動様式について、その心理的・生理的な背景がわかり、肢体不自由の指導についてその理由を推察することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 教育活動の組み立て、
- 4 子ども理解、
- 2 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

内容

1	脳性麻痺の病態生理と治療（奈倉）
2	肢体不自由特別支援学校と肢体不自由児の実際（松井）
3	定型発達児の運動発達と肢体不自由（松井）
4	神経・筋疾患の病態生理と治療（1）（奈倉）
5	肢体不自由児の実態把握（アセスメント）（1）（松井）
6	肢体不自由児の実態把握（アセスメント）（2）（松井）

7	神経・筋疾患の病態生理と治療（2）（奈倉）
8	肢体不自由児と基礎感覚（前庭感覚・固有感覚・触覚）（松井）
9	肢体不自由児の「聞くこと・見ること」の困難とその対応（松井）
10	重症心身障害児や医療的ケアの現状と課題（奈倉）
11	肢体不自由児の「食べる・飲む」の困難とその対応（松井）
12	肢体不自由児の「コミュニケーション」の困難とその対応（松井）
13	肢体不自由児の「社会適応」の困難とその対応（松井）
14	肢体不自由の心理・生理・病理に関する総合復習（1）（奈倉）
15	肢体不自由の心理・生理・病理に関する総合復習（2）（松井）

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1~13回

【事前学習】肢体不自由に関する文献や報道記事を読む

【事後学修】「授業時のポイントについてまとめる」または「授業に関連する新聞記事・書籍の一部・論文等、指定された文献を読み、課題についてまとめる」

14~15回

【事前準備】今までの授業で取り扱われた内容について A4用紙の指定枚数に内容をまとめる、または 授業時のプリントを参考に復習を行い演習問題が解けるようにする。

【事後学習】今までの総復習で練習用に出題された問題を解けるように学習する。

#### 評価方法および評価の基準

到達目標(1)試験25%、平常点5%

到達目標(2)試験15%、平常点10%、レポート5%

到達目標(3)試験20%、平常点10%、レポート10%

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーや課題を踏まえ、次回の授業でコメントや解説を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しない。講義の中で参考文献や推薦図書を随時提示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

障害を考えることを通して、一人一人が人間の本質に少しでも迫れるようにしたい。1年生の履修が多い科目であるが、「教えられることを理解する・覚える」から一歩進み、「別の場合はどうなるのだろうか?」「類似したこの状態も同じと考えることができるのか」など疑問を生成しながら学びを進める意識で臨んでほしい。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司、真路 展彰		
ナンバリング	EBe3050		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

元特別支援学校教員や医師が実務経験を基に学校場面で活用できる指導方法について講義する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の選択科目であり、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目である。「病弱教育概論」「病弱教育課程論」と関連し、病弱教育の前提となる心理・生理・病理の知識を深める。さらに、病弱児が抱える困難とその背景を理解することで、有効な指導の手だてを考える一助となる知識を習得する。

##### 科目の概要

疾病により子どもたちが受ける教育場面での生理学的、病理学的、心理学的変化について学習する。

##### 授業の方法

講義を基本としながら、各時間において、授業内容に関する内容について、意見交換や討論を行う。

【グループワーク】 【実技】 【ディスカッション】

##### 到達目標

- 1.病弱児の心理・生理・病理上の特性や特徴を理解することができる。
- 2.病弱児の概要を知り、生活上の困難について考え、具体的にまとめることができる。
- 3.病弱児の特性を踏まえたかわりについて考え、支援について協議することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することとする。

- 1 教育活動の組み立て方、 -4 子ども理解 -3 使命・職務の理解、職責を果たす姿勢

#### 内容

1	総合 病気の子供たちの現状 [細谷]
2	総合 さまざまな病弱教育 [細谷]
3	心理 教科別の指導 [細谷]
4	心理 自立活動 [細谷]
5	生理・病理 慢性疾患 [真路]
6	生理・病理 慢性疾患 [真路]
7	生理・病理 慢性疾患 [真路]
8	生理・病理 精神疾患 [真路]
9	生理・病理 精神疾患 [真路]

10	心理 ターミナル期の心理 [細谷]
11	心理 行事等 [細谷]
12	心理 センターの機能 [細谷]
13	心理 合理的配慮 [細谷]
14	まとめ [細谷]
15	総合 総合解説 [細谷]

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。(45分)

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。(45分)

#### 評価方法および評価の基準

授業回に指示する課題への取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出(20%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2．課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3．課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

【フィードバック】 提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	EBf3059		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場で児童・教員に指導経験のある教員が、総合表現の方法と指導法について学生の主体性を大切にしながら指導する。学校で総合表現のピアノ伴奏の経験のある教員が、コミュニケーションを支える実技の方法を示す。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが受講することを想定して開設しました。

##### 科目の概要

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博／詩、近藤幹雄／曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

##### 授業の方法（ALを含む）

この科目では、クラスの仲間と歌・朗読・身体表現を練習したり、相互に教え合ったりしながら、教員として必要な声や身体の使い方を学んでいきます。学内外の人に発表する目標を立て、役割を分担しながら目標に向かって表現を工夫し高めていきます。振り返りのレポートや、映像を見ながら意見交換する機会を作り、客観的に自分を見つめることもできます。【実技】【創作・制作】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる
2. 心をひらき、実感を込めて表現する
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- 3 主体的・継続的学習
- 1 他者との協働、役割・職務遂行
- 2 校務運営

#### 内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法【実技】

2. 教師の表現力 声【実技】
3. 教師の表現力 朗読【実技】
4. 表現活動の指導 呼吸法【実技】
5. 表現活動の指導 行進【実技】
6. 表現活動の指導 ステップ【実技】
7. 表現活動の指導 身体表現【創作・制作】
8. 表現活動の指導 集団朗読【グループワーク】
9. 表現活動の指導 総合表現【創作・制作】
10. 表現活動の指導 オペレッタ【創作・制作】
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱【創作・制作】
12. 表現活動の指導 演出と構成【創作・制作】
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる【創作・制作】
14. 表現活動の指導 まとめ【プレゼンテーション】
15. まとめ【レポート（表現）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）
- 振り返りのレポートを最後に作成します。

#### 評価方法および評価の基準

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%
2. 心をひらき、実感を込めて表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教室で随時資料を配付します。
- 【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版
- 【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房
- 梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名			
ナンバリング	EBf3059		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場で児童・教員に指導経験のある教員が、総合表現の方法と指導法について学生の主体性を大切にしながら指導する。学校で総合表現のピアノ伴奏の経験のある教員が、コミュニケーションを支える実技の方法を示す。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが受講することを想定して開設しました。

##### 科目の概要

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博／詩、近藤幹雄／曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

##### 授業の方法（ALを含む）

この科目では、クラスの仲間と歌・朗読・身体表現を練習したり、相互に教え合ったりしながら、教員として必要な声や身体の使い方を学んでいきます。学内外の人に発表する目標を立て、役割を分担しながら目標に向かって表現を工夫し高めていきます。振り返りのレポートや、映像を見ながら意見交換する機会を作り、客観的に自分を見つめることもできます。【実技】【創作・制作】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる
2. 心をひらき、実感を込めて表現する
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- 3 主体的・継続的学習
- 1 他者との協働、役割・職務遂行
- 2 校務運営

#### 内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法【実技】

2. 教師の表現力 声【実技】
3. 教師の表現力 朗読【実技】
4. 表現活動の指導 呼吸法【実技】
5. 表現活動の指導 行進【実技】
6. 表現活動の指導 ステップ【実技】
7. 表現活動の指導 身体表現【創作・制作】
8. 表現活動の指導 集団朗読【グループワーク】
9. 表現活動の指導 総合表現【創作・制作】
10. 表現活動の指導 オペレッタ【創作・制作】
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱【創作・制作】
12. 表現活動の指導 演出と構成【創作・制作】
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる【創作・制作】
14. 表現活動の指導 まとめ【プレゼンテーション】
15. まとめ【レポート（表現）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）
- 【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）
- 振り返りのレポートを最後に作成します。

#### 評価方法および評価の基準

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%
2. 心をひらき、実感を込めて表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教室で随時資料を配付します。
- 【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版
- 【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房
- 梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	EBf1060		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場で児童・教員に指導経験のある教員が、総合表現の方法と指導法について学生の主体性を大切にしながら指導する。学校で総合表現のピアノ伴奏の経験のある教員が、コミュニケーションを支える実技の方法を示す。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが受講することを想定して開設しました。

##### 科目の概要

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

##### 授業の方法（ALを含む）

この科目では、クラスの仲間と歌・朗読・身体表現を練習したり、相互に教え合ったりしながら、教員として必要な声や身体の使い方を学んでいきます。学内外の人に発表する目標を立て、役割を分担しながら目標に向かって表現を工夫し高めていきます。振り返りのレポートや、映像を見ながら意見交換する機会を作り、客観的に自分を見つめることもできます。表現活動既修者が受講した場合には皆さんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。【実技】【創作・制作】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【グループワーク】

##### 到達目標

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる
2. 心をひらき、実感を込めて表現する
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- 3 主体的・継続的学習
- 1 他者との協働、役割・職務遂行
- 2 校務運営

#### 内容

この授業は全体練習・グループ練習・個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法【実技】
2. 教師の表現力 声【実技】
3. 教師の表現力 朗読【実技】
4. 表現活動の指導 呼吸法【実技】
5. 表現活動の指導 行進【実技】
6. 表現活動の指導 ステップ【プレゼンテーション】
7. 表現活動の指導 身体表現【グループワーク】
8. 表現活動の指導 集団朗読【グループワーク】
9. 表現活動の指導 総合表現【創作・制作】
10. 表現活動の指導 オペレッタ【創作・制作】
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱【創作・制作】
12. 表現活動の指導 演出と構成【創作・制作】
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ【プレゼンテーション】
15. まとめ【レポート（表現）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。（各授業に対して30分）最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

#### 評価方法および評価の基準

1. 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げる 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%
2. 心をひらき、実感を込めて表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%
3. 作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現する 評価方法：毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）20%、レポート課題20%

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、振り返りの会で省察を行います。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	<b>教職基礎演習</b>		
担当教員名	綾井 桜子、塚田 昭一、岡本 明博、細谷 忠司 他		
ナンバリング	EBf3061		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

1回目～12回目までを小学校等での実務の経験のある教員が、これまでの経験を活かして、学校教育の実際について伝え、指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科「教育の理論および実践の応用に関する科目」に関する選択科目である。1年次に履修する必修の「教職の基礎理論に関する科目」にて習得する内容を、学校の実際に照らして学ぶ。本科目は、3年次以降に履修する「教育実習」に関する科目の基礎となる。

小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場でその実際を知る。また、担任教師として求められる児童理解や人間理解のありかたを知り、対応のしかたを学ぶ。

##### 科目の概要

小学校教員の職務の基礎的な事項について演習形式で学ぶ。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。また、教職にとっての基礎となる児童・人間理解、信頼関係の構築、学級問題について、事例を交えながら演習形式で学ぶ。

##### 授業の方法

グループワーク、学校での現場での観察・省察をもとに、ディスカッション、リアクション・ペーパー、小テストを取り入れながら進める。【フィールドワーク】、【ディスカッション】、【リアクションペーパー】【グループワーク】、【小テスト】

##### 到達目標

- ・計画書等を作成し、学校現場について理解することができる。（小テスト・リアクションペーパー等の提出物 50%）
- ・小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得ることができる。（小テスト・リアクションペーパー 50%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 教育活動の組み立て、
- 2 学級経営・学級づくり、
- 1 子どもから学び、共に成長する姿勢

#### 内容

本授業は、以下の内容について、グループワーク、学校現場での観察等を通して学びを深める。

- 学校の1年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の1年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに学ぶ。
- 教師におけるコミュニケーションを通じての信頼関係の構築、および学級問題について事例を通して学ぶ。

オリエンテーション / 学校インターンシップの目的	【綾井・塚田】
学校の目的、学校の1年間、教師の1年間	【日出間】
学校行事の目標と内容、効果的な取組	【日出間】
学校安全の目標と内容、効果的な取組	【日出間】
学校教育計画と計画書の作成演習 1 (例: 清掃などの当番活動)	【塚田】
学校教育計画と計画書の作成演習 2 (例: 給食の時間の指導)	【塚田】
学校教育計画と計画書の作成演習 3 (例: 始業式・終業式)	【塚田】
学校と地域との関係	【細谷】
学校と地域との関係	【羽田】
学校と保護者との関わり	【細谷】
学級における支援を必要とする児童について	【岡本】
学級における支援を必要とする児童への対応	【岡本】
信頼関係の構築とコミュニケーション	【綾井】
学級における人間関係形成と児童の自己成長	【綾井】
学級における人間関係形成を促すためのグループアプローチ	【綾井】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業で扱う前提となる事項について『小学校学習指導要領解説(総則編)』、『小学校学習指導要領解説(特別活動編)』を読み、教育時事について情報を収集する。(あわせて60分)
- 【事後学修】インターンシップでの体験を授業の内容と関連づけ、教職(とくに学校・教職・学級)についての理解を深める。授業にて配布の資料を再読し、ノートを整理し、まとめる(あわせて60分)

#### 評価方法および評価の基準

- 毎時間の学修票の作成、各内容ごとの小テスト・小まとめ(50点)、学習態度・積極性・発言等(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】  
小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)
- 【推薦書】授業時に指示する。
- 【参考図書】授業時に指示する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	<b>書写・文章表現演習（基礎）</b>		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子		
ナンバリング	EBf3067		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

書写の指導においては、教員及び指導主事、教科調査官（文部科学省）の経験をもつ教員が担当し、教科「国語」における書写の指導内容に基づいた指導を行い、学生自身の書字能力の向上と、書写の指導に関する知識・技能の修得を図る。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「大学が独自に設定する科目」の選択科目である。小学校教員として文章を書くための基礎と文字指導を行うための基礎を身に付けるとともに、書字能力を高める。

#### 科目の概要

書写については、小学校国語の書写に関する指導内容に即し、文字指導に必要な用具（硬筆を中心とする）の扱いや運筆、文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また、チョークによる板書を通して教師の書く文字についてもそのポイントを学習するとともに、ICTを用いた教材の作成などにも取り組む。

文章表現では、話し言葉と書き言葉の違い、分かりやすい表現など、文章を書くための基礎を身に付けるほか、問いに正対して書くなど、小論文を書く基本を学習する。

#### 授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習を中心とする。課題に即した文章の記述、硬筆を用いた書字、文字の基本的な指導等を実際に行いながら学修を進める。ICTを用いた教材作成も行う。【実技】【レポート】【ロールプレイ】【ICT】

#### 到達目標

- 1.文字指導を行うための基本的な知識を身に付け、板書やプリント作成において応用することができる。（平常点30％、最終レポート20％）
- 2.文章を書くための基礎と技能を身に付け、工夫して小論文を書くことができる。（平常点30％）
- 3.文字表現に関心をもち、進んで文字や文章を書く（表現する）ことができる。（平常点10％、最終レポート10％）

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 指導法の工夫            -5 指導技術、子どもの関心・意欲喚起

内容

1	ガイダンス，文章表現 ～話し言葉と書き言葉～（綾井）【創作】
2	文章表現 ～文章表現の基礎、優れた表現から学ぶ～（綾井）【創作】
3	文章表現 ～分かりやすい文章を書く～（綾井）【創作】
4	文章表現 ～実用的な文章を書く～（綾井）【創作】
5	文章表現 ～問いに正対した文章を書く～（綾井）【創作】
6	書写 ～文字指導の概要，学習指導要領の理解，姿勢や筆記具の持ち方，平易な平仮名～（富山）【実技】
7	書写 ～やや難しい平仮名～（富山）【実技】
8	書写 ～難しい平仮名，板書の基本・チョークの持ち方～（富山）【実技】
9	書写 ～片仮名～（富山）【実技】
10	書写 ～学習指導要領「書写」の内容，漢字1：点画の種類と筆順～（富山）【ロールプレイ】
11	書写 ～漢字2：文字の組み立て～（富山）【実技】
12	書写 ～漢字3：文字の大きさや配列～（富山）【実技】
13	書写 ～読みやすい板書を考える～（富山）【ロールプレイ】
14	書写 ～書写指導の教材を作る（ICT機器を利用）～（富山）【ICT】
15	まとめと振り返り，文章表現の工夫，文字指導について考える～（富山）【レポート】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバス及び次回予告に即して、テーマに関する資料を集めたり、自身の課題を把握したりする[各授業に対して45分]。書写の学修においては、Bまたは2Bの鉛筆を準備すること。

【事後学修】実技を伴う学修においては技能の復習をするとともに、日常生活での活用を意識的に行う[各授業に対して45分]。

#### 評価方法および評価の基準

演習等への参加状況及び作成物の状況70%、最終的な論述レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場でアウトリーチ演奏・児童の表現活動の伴奏経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場でアウトリーチ演奏・児童の表現活動の伴奏経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校でアウトリーチ演奏、中学校・高等学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校でアウトリーチ演奏、中学校・高等学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校でアウトリーチ演奏、中学校・高等学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園の外部講師として指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30％）通常の授業における取り組み（10％）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30％）通常の授業における取り組み（10％）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10％）通常の授業における取り組み（10％）

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園の外部講師として指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校現場でアウトリーチ演奏・児童の表現活動の伴奏経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

科目の概要

授業の方法（ALを含む）

到達目標

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

【事後学修】

#### 評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園・小学校でアウトリーチ演奏、中学校・高等学校で指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実験を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園の外部講師として指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	EBg2072		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園の外部講師として指導経験のある教員が、児童が歌いやすい伴奏法を指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」の選択科目である。ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 授業の方法（AL）を含む

本科目では、小学校、幼稚園など学生それぞれの進路に合わせた歌唱課題の弾き歌いを練習し、伴奏をしながら歌唱の指導ができるよう学習する。人前で発表することで、伴奏の実際を経験する。【実技】

##### 到達目標

- 1．小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。
- 2．児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。
- 3．様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。 - 3 主体的・継続的学習

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる（各授業に対して150分以上）。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること（各授業に対して45分以上）。

#### 評価方法および評価の基準

1. 小学校や幼稚園の教育現場で必要となるピアノ伴奏と弾き歌いができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
2. 児童が歌いやすい合図や伴奏ができる。 評価方法：実技試験（30%）通常の授業における取り組み（10%）
3. 様々な伴奏譜・伴奏法を比較し、自分に合った楽譜や伴奏法を選択できる。 評価方法：実技試験（10%）通常の授業における取り組み（10%）

実技試験（70%）通常の授業における取り組み（30%）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児と健康		
担当教員名	山本 悟、井上 由利子、桶田 ゆかり		
ナンバリング	EBg2073		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

幼稚園教員として幼児の健康教育に携わった経験を持つ教員が担当し、幼稚園現場の実際の様子や実態に応じた学びを取り入れながら指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は児童教育学科専門科目の「幼稚園教員養成分野」に位置づけ、幼稚園教諭免許取得の選択科目である。幼稚園教育要領の領域「健康」に関する専門的な知識と指導に関する基本的な内容や要点を身につけ、2年次で履修する「保育内容の指導法（健康）」と関連性の深い科目である。

##### 科目の概要

幼稚園教育における健康・安全に必要な基本的な生活習慣や健康づくり、幼児の運動遊びに関する情報や知識、および施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説に加えて、パワーポイントによるスライドと模造紙のポスター制作を活用した振り返り活動を取り入れた授業を行う。【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

##### 到達目標

- 1) 幼児期の健康、生活習慣の指導に関する基本的な知識や技能を身に付ける。
- 2) 幼児期の運動の重要性を理解し、発育発達に関する知識や情報を理解する。
- 3) 健康に関する教材資料を作成して活用することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1教育活動の組み立て

#### 内容

1	乳幼児期の健康課題について	: 井上、山本
2	乳幼児期の健康課題と幼稚園教育要領の接点～運動発達を踏まえて	: 井上、山本
3	グループワーク の解説と準備活動 ～パソコン操作と作業（PC教室）	: 井上、山本
4	子どもの生活リズムと基本的な生活習慣（保健指導を含む）	: 井上
5	幼児期の食と栄養（アレルギー、食育等:保健指導も含む）	: 井上
6	幼稚園における子どもの実態を知る（1）幼稚園の一日 ～発表準備	【グループワーク】 : 井上、山本
7	グループワーク（乳幼児の特性を題材に）発表チームA	【プレゼンテーション】 : 山本、井上

8	幼児の安全教育（生活安全：病気の予防を含む）	：桶田、井上
9	幼児の安全教育（防災安全：応急処置応を含む）	：桶田、井上
10	幼児の安全教育（交通安全）～発表準備	【グループワーク】：桶田、井上
11	グループワーク（安全教育を題材に）発表チームB【プレゼンテーション】	：井上、山本
12	幼稚園教育における運動指導の実践（サブアリーナ）	：井上、山本
13	幼稚園における子どもの実態を知る（2）子どもの遊びと指導～発表準備	【グループワーク】：井上、山本
14	グループワーク（遊びや運動を題材に）発表チームC【プレゼンテーション】	：山本、井上
15	総まとめとレポート作成【レポート（知識）】	：井上、山本

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「幼稚園教育要領解説」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめる。各授業に対して60分。グループワークの提出物作成（60分×3回）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

#### 評価方法および評価の基準

グループワーク実践と提出物45%、まとめのレポート15%、授業への参加度40%で評価し、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) まとめレポート（10%/15%、授業への参加度（20%/40%）

到達目標 2) まとめレポート（5%/15%）授業への参加度（10%/40%）

到達目標 3) グループワーク実践と提出物（45%/45%）授業への参加度（10%/40%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出物等はコメントを記載し翌週以降に返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館(平成29年度版)

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	幼児と人間関係		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	EBg2074		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、児童教育学科の「教職課程及び指導法に関する科目」で、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目です。

##### 科目の概要

子供を取り巻く環境の現状を踏まえ、発達の過程において人と関わる力の育ちの重要性を説明します。「幼稚園教育要領」に記される領域「人間関係」について、事例に学びながら総合的に保育を捉える力の育成を図ります。

##### 授業の方法（ALを含む）

グループで模擬保育の指導案の検討したり、課題解決を図ったりします。【グループワーク】

##### 到達目標

- 1 子供を取り巻く環境と「人間関係」について理解することができる。
- 2 人間関係の発達の特徴を述べることができる。
- 3 事例を通して子供の人間関係を観る視点を理解し、自分の意見を述べることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5 指導法の工夫

#### 内容

1	オリエンテーション 子どもの人間関係をめぐる現代的課題
2	幼稚園・保育所での領域「人間関係」
3	人との関わりの発達(1) 0歳児? 2歳児
4	人との関わりの発達(2) 3歳児? 4歳児
5	人との関わりの発達(3) 5歳児
6	幼児と保護者のかかわり(1) 自立
7	幼児と保護者のかかわり(2) 協同

8	事例検討(1)遊びの中の人とのかかわり
9	事例検討(2)生活を通しての人とのかかわり
10	事例検討(3)個と集団の育ち
11	事例検討(4)保育場面で気になる幼児とのかかわり
12	模擬保育(1)絵本・紙芝居の活用
13	模擬保育(2)指人形・手遊びの活用
14	模擬保育(3)ゲームの活用
15	まとめ レポート作成

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領をよく読み、理解を深めておく。(各授業に対して45分)

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、他の履修生のリアクションペーパーを読む。(各授業に対して45分)

#### 評価方法および評価の基準

レポート50%、模擬保育30%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 レポート(15%/50%) 授業への参加度(5%/20%)

到達目標2 レポート(15%/50%) 模擬授業(15%/30%) 授業への参加度(5%/20%)

到達目標3 レポート(20%/50%) 模擬授業(15%/30%) 授業への参加度(10%/20%)

【フィードバック】毎回のレポートをシェアリングする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】幼稚園教育要領解説(平成30年2月版) 無藤 隆監修、事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」、萌文書林  
2018年

【推薦書】授業において紹介する

【参考図書】保育所保育指針

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児と環境		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	EBg2075		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「領域・保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」の必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。本科目は、小学校低学年で学ぶ「生活科」との関連性があり、保幼小接続の視点や、幼稚園教育要領の領域「環境」に関する専門的な知識と実践的指導力について学修します。

##### 科目の概要

領域「環境」に関する専門的事項や、幼児が感性を働かせ、知識・技能を身に付けるための環境構成・教材の工夫について学びます。具体的には、身近な動植物の生態やその栽培・飼育方法を学ぶために、実際に栽培・飼育活動を行ったり、大学近隣を散策して身近な自然や標識・文字・情報・施設について調べたりする活動を通して、幼児の視点から理解を深めます。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義を中心として、グループワーク、演習等を取り入れた授業を行います。

##### 到達目標

1. 幼稚園教育要領に示された領域「環境」の狙い及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深めることができる。（小レポート30 / 60%）（最終レポート20 / 40%）
2. 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。（小レポート30 / 60%）（最終レポート20 / 40%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

#### - 1 教育活動の組み立て

#### 内容

本授業は講義を中心に、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等を取り入れながら学びを深めていきます。

1	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」の狙い及び内容について
2	内容 ネイチャーゲームを取り入れた自然体験（自然に対する大きさ、美しさ、不思議さ）【フィールドワーク】
3	内容 生活の中での関わり（ものの性質や仕組み）【創作・制作】
4	内容 自然や季節との関わり（季節による人間生活の変化）【グループワーク】
5	内容 自然や季節との関わり（自然を取り入れて遊ぶ）【創作・制作】
6	内容 身近な動植物との関わり（生命の尊さ）【グループワーク】
7	内容 地域の伝統文化との関わり（地域の祭りや伝統文化に触れる）【グループワーク】
8	内容 身近な物との関わり（公共物）【グループワーク】
9	内容 身近な物や遊具との関わり（試行錯誤、工夫）【創作・制作】
10	内容 日常生活における数量や図形（数えたり量ったりする活動）【ロールプレイ】
11	内容 日常生活における簡単な標識や文字（身近な標識や文字に触れる）【フィールドワーク】
12	内容 生活に関係の深い情報や施設（公共施設）ICT活用【プレゼンテーション】
13	内容 幼稚園内外の行事（国旗に親しむ）【グループワーク】
14	幼児が主体的に関わることができる環境構成、教材の工夫について【レポート】
15	まとめ 領域「環境」への関わりを促す教師の役割【レポート】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマに関する内容について、幼稚園教育要領を読み授業に臨みます。（各授業に対して60分、担当班はプレゼンテーションを含90分）

【事後学修】各回、テーマに関する振り返り等をレポートにまとめ提出する。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度と毎時間提出する小レポート60%、最終的な論述レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートに記載された質疑等については、コメントを記載し、翌週以降の授業内で活用（紹介）していきます。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領（平成30年2月 文部科学省）

【推薦書】授業時に指示します。

【参考図書】授業時に指示します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

幼保小の教育課程の接続、特に小学校で学習する生活科との関連を意識しながら授業に臨むことが大切です。

科目名	幼児と言葉		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	EBg2076		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の「領域・保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」の必修科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容に関する基礎的知識について学修する。

##### 科目の概要

知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言葉の意義と役割について理解するとともに、多様な児童文化財の内容と保育上の価値について知る。その上で、幼児の言葉を豊かに育てるための教材や実践に関する知識を身に付ける。

##### 授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説を中心とするが、身に付けた知識・技能を教育活動において活用することがイメージできるように、映像資料を見てグループで協議したり、児童文化財を用いて模擬的な実践を行ったりする。 【ディスカッション】【実技】【ロールプレイ】

##### 到達目標

- 1.言葉のもつ意義と役割及び乳幼児の言葉の発達過程の概要を理解し、説明することができる。（小レポートや振り返り25%、最終レポート15%）
- 2.児童文化財（絵本、紙芝居等）の特徴について知り、工夫して活用することができる。（小レポートや振り返り25%）
- 3.児童文化財を用いた、言葉を豊かにする実践に関心をもって参加することができる。（小レポートや振り返り25%、最終レポート10%）

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 教育活動の組み立て方

#### 内容

1	ガイダンス～乳幼児の言葉に関心をもつ～
---	---------------------

2	言葉の意義と役割について知る～「赤ちゃん絵本」の分析による～
3	子供の言葉の発達過程～喃語から文字習得まで～ 【ディスカッション】
4	言語を豊かに育てる児童文化財～児童文化財に関する知識の習得～
5	言葉に対する感覚を豊かにする実践について知る～言葉遊びのいろいろ～
6	演習 子供が楽しめる「言葉遊び」を考える 【グループワーク】
7	想像する楽しさを味わう実践について知る～物語を語る～
8	演習 おはなし～昔話を語る～ 【実技】
9	幼児の発達段階と絵本選び～言葉と内容に着目して～
10	絵本の交流会～選択した絵本と選択理由の交流～
11	領域「言葉」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について知る
12	言葉を豊かにする実践について知る～絵本の読み聞かせ～
13	演習 絵本の読み聞かせ 【ロールプレイ】
14	想像する楽しさを味わう実践について知る～紙芝居～ 《ICTの活用》
15	まとめ～領域「言葉」の指導と児童文化財の活用～

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回前に、幼稚園教育要領解説の必要部分を確認しておく。日頃から絵本や児童書、言葉遊びなどに関心を持ち、その特徴等について自分の考えをまとめておく。[各授業に対して45分]。

【事後学修】各回の学習内容を自分なりにまとめるとともに、取り扱った絵本等に実際に触れ、学修内容についての理解を深める。[各授業に対して45分]。

#### 評価方法および評価の基準

毎回の小レポートまたは演習の振り返り等75%。最終的な論述レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】小レポートや振り返りの中で質問等の記述を求め、必要に応じて次回の授業で補足説明する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

【参考図書】『保育所保育指針解説』（平成30年3月）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児と表現		
担当教員名			
ナンバリング	EBg3077		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

「有」

#### 実務経験および科目との関連性

学校と保育現場で演奏・伴奏経験のある教員が、幼児の表現活動に必要な基本的な知識や技能を実技を交えて指導する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科幼稚園教諭養成分野における選択科目である。幼稚園教育要領に基づき、領域「表現」の基盤となる理論と実践について理解を深め、幼児の表現を理解し教育を行う際の基本的な知識と技能を学修する。

##### 科目の概要

幼児の育ちと表現の姿を理解し、学生自身が環境構成や教師のあり方を考えられるようにする。幼児にふさわしい歌や、劇、楽器などを用いた表現活動の実際についても学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

幼児の音楽表現、リズム表現、身体表現の教育法について学び、グループワークや省察を通して領域「表現」の教育のねらいへの理解を深める。【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

##### 到達目標

1. 幼児の表現の発達の特徴と、年齢に応じた表現活動の支援方法について述べることができる。
2. 世界の様々な音楽教育法の理念と特徴を説明できる。
3. 身近な素材や児童文化財を用いた表現活動について調べ、発表できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 4 子ども理解

#### 内容

1	領域「表現」のねらい（幼稚園教育要領）
2	乳幼児期の表現の発達（0歳児～3歳児未満）【リアクションペーパー】
3	幼児期の表現の発達（3歳児～5歳児）【リアクションペーパー】
4	リズムによる表現（ダルクローズの音楽教育法）
5	内的聴覚を育てる（コダーイの音楽教育法）

6	遊び歌の意義と子どもの育ち（わらべ歌、数え歌）
7	楽器による表現（オルフの音楽教育法）
8	楽器による表現の実際【グループワーク】
9	劇遊び、劇づくりの実際【グループワーク】
10	指導計画の立て方と評価
11	発表 身近な素材を用いた表現活動【グループワーク】
12	発表 児童文化財を用いた表現活動【グループワーク】
13	省察 発表映像を見ながら各自の課題を発見する
14	省察 レポートづくりと口頭発表【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート（知識）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業で扱うテーマについて予告するので各自予習し、質問内容を整理しておく。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理（各授業に対して45分）

#### 評価方法および評価の基準

1. 幼児の表現の発達の特徴と、年齢に応じた表現活動の支援方法について述べるができる。 評価方法：授業への取り組みと発表20%、省察のレポート20%
2. 世界の様々な音楽教育法の理念と特徴を説明できる。 評価方法：授業への取り組みと発表20%、省察のレポート10%
3. 身近な素材や児童文化財を用いた表現活動について調べ、発表できる。 評価方法：授業への取り組みと発表30%

授業への取り組みと発表70%、省察のレポート30%を評価し、60点以上を合格とする。規定により三分の二以上の出席により評価を得ることができる。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーや課題にコメントを付す。プレゼンテーションについては、その場で工夫されていた点などをクラス内で共有しコメントする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」

【推薦書】「乳幼児のための保育内容表現 身体・音楽・造形」佐野美奈他著、ナカニシヤ出版（2019年）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など



科目名	保育内容総論		
担当教員名	小谷 直路		
ナンバリング	EBg3078		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、児童教育学科幼児教育分野における必修科目であり、幼稚園教諭免許取得者には必修科目である。

科目の概要

幼稚園教育における指導や指導計画の考え方を理解し、実践に必要な基本的な知識・技能を身に付ける。

授業の方法

保育の展開を考えるにあたり理解が必要な基本的な事項について学んでいく。具体的な保育場面での事例を取り上げ、保育者としてどのように幼児の発達を捉え、どのように保育内容を精選し、どのように指導をすすめるかについて検討する。また、保育の実践力の向上につながるように、学生同士で協議したり、自らの考えを文章化したりすることにも取り組む。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【討議・討論】

学修目標（到達目標）

- (1)園生活全体を通して総合的に指導するという幼稚園教育における指導の考え方を理解できる。
- (2)幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解できる。
- (3)幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1教育活動の組み立て

内容

1	保育の基本（1）社会とのつながりをふまえた保育の在り方
2	保育の基本（2）幼稚園教育要領における保育内容の考え方
3	保育の基本（3）遊びを通した総合的な指導
4	保育の基本（4）一人一人に応じた指導
5	保育と計画（1）幼児理解に基づいた保育の展開
6	保育と計画（2）指導計画作成の考え方
7	保育と計画（3）指導計画作成の実際
8	保育と計画（4）園行事の意味と指導の実際
9	保育における保育者の役割（1）環境の構成

10	保育における保育者の役割（２）教材研究
11	保育における保育者の役割（３）記録の意義と実際
12	保育における保育者の役割（４）幼児理解と指導の評価
13	今日的課題をふまえた保育内容（１）保育内容の史的変遷
14	今日的課題をふまえた保育内容（２）小学校教育との接続
15	今日的課題をふまえた保育内容（３）遊びの意味

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱う内容に関連した資料検索、発表準備(各授業に対して1時間)

【事後学修】授業のまとめ、提示する課題作成（各授業に対して1時間）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標(1)の評価 最終レポート提出10%、授業への参加度・取組10%、毎時リアクションペーパー（小レポート）15%

到達目標(2)の評価 最終レポート提出10%、授業への参加度・取組10%、毎時リアクションペーパー（小レポート）15%

到達目標(3)の評価 最終レポート提出10%、授業への参加度・取組10%、毎時リアクションペーパー（小レポート）10%

全体として、最終レポート提出30%、授業への参加度・取組30%、毎時リアクションペーパー（小レポート）40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパーの内容に応答し、理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説(2018)

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リスニング応用		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	EBh3086		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

英語の自然な発話にみられる音変化を習得したのち、文化的背景・社会常識・英語で行う英語の授業に関連する素材を使って英語のリスニングの力を高める。

##### 授業の方法（ALを含む）

前半では、英語の自然な発話にみられる音変化について説明をしたのち、予習で課した音声のリスニング・ディクテーションの確認を行う。後半では、映像付きの英語を聞き、重要なポイントを逃さず聴きとれる練習をグループワークにて行う。部分的なディクテーションも行う。毎回の授業の初めには前回の単語や音声の復習テストを行う。音声は授業用フォルダ上に保存するので、予習・復習時に使用すること。【ミニテスト】【グループワーク】

##### 到達目標

- (1)音変化を含んだリスニング素材を聞き取り、ディクテーションができる。
- (2)映像付きの英語の自然な発話を聞き取りを行い、目的に応じて情報や考えなどを理解し、重要な点をメモやノートにとることができる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

#### 内容

- (1) 毎週かなりの課題が出るので、事前事後学修が重要である。
- (2) 毎週の課題の中にわからない単語がある場合は、必ず辞書を引いて予習しておくこと。
- (3) 最終回には指定箇所の音声吹込みを行う。

- 第1回：導入：英語のリスニングに必要な力とは
- 第2回：機能語と内容語
- 第3回：短縮形
- 第4回：変化する音
- 第5回：聞こえなくなる音
- 第6回：つながって聞こえる音・やわらかくなる音
- 第7回：注意すべきイントネーション
- 第8回：音変化のまとめ
- 第9回：映像付き英語のリスニング 場面1
- 第10回：映像付き英語のリスニング 場面2
- 第11回：映像付き英語のリスニング 場面3
- 第12回：映像付き英語のリスニング 場面4
- 第13回：映像付き英語のリスニング 場面5
- 第14回：映像付き英語のリスニング 場面6
- 第15回：まとめ（指定箇所の吹込み）

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】毎週、指定された箇所のリスニングに取り組み、分からない単語は調べておくこと。最低50分。
- 【事後学修】授業で取り組んだポイントの箇所をディクテーションできるようにすること。最低50分。

#### 評価方法および評価の基準

期末テスト(筆記・音読)(70%)、授業への取り組み(小テスト・予習・課題・参加態度)の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1)期末テスト(筆記・音読)(30%/70%)、授業への取り組み(10%/30%)
- (2)期末テスト(筆記・音読)(40%/70%)、授業への取り組み(20%/30%)

【フィードバック】復習の小テストは翌週に返却します。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし

授業内でハンドアウトを配布する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リスニング応用		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	EBh3086		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

自然な英語音声には、音変化が起こる以前の発音はほぼ存在しない。これをききとるには、自分でもそのように発音していることが一番の近道であり、英語で教えたり仕事をしたりするときにも便利である。

毎回の授業では、音変化の説明と例示にひきつづいて、その現象がみられる語句のディクテーションを行い、すぐに一般的なリスニング形式の問題演習を行う。また、情景描写に使われる、空間位置関係を表す英語の例に多数触れ、発話につながるリスニング力を養う。

##### 授業の方法（ALを含む）

音変化現象・情景描写表現の両方について、授業の中でミニテストを行い、

直ちに答え合わせとペア・グループワークをして疑問点の解決を図る。

その記録をリアクションペーパーにとり、次回の授業でコメントを返し、

音声学に関しても描写表現に関しても、次のレッスンへのフィードバックとする。

複数回、自分で用意した写真を英語で描写してマイクを回してプレゼンテーションを行う。

【ミニテスト】【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

(1)英語リスニング教材に近い発音ができる

(2)情景を描写している英語の、ききとり・発話の両方ができる

(1)の近さの程度は各自の判断でよいが、ペア・グループの批評に耐えるようにする

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

初回を含めて毎回、2つの教科書の両方を使う。

1. ガイダンス (英語の子音連続、情景描写の基礎)
2. 短縮 (be動詞, would, hadの弱形)
3. 短縮 (will, have, hasの弱形)
4. 短縮 (...+not)
5. 同化 (-t/d + you(r))
6. 同化 (-他の子音 + you(r))
7. wanna, gonna
8. gotta, gimme, lemme
9. 機能語の弱形(人称代名詞等・hの脱落)
10. 機能語の弱形(接続詞, 関係詞等)
11. 弱母音・子音の脱落
12. 子音の省略的発音 (子音の前・語末)
13. つながる音 (語境界をはさんだ子音+母音)
14. 音声的熟語
15. まとめ・有声のt・半母音の脱落

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

##### 【事前準備】

- 1の教科書の各回に指定されたunitを全問解き、例文をスラスラ読めるまで発音する。(60分程度)
- 2の教科書に関連する課題が事前に出されているときは、写真を調達・撮影し、英作文を行う。(平均20分)

##### 【事後学修】

- 情景描写の原稿が返却されているときは、その原稿の発音等を辞書や教科書で確認し、暗唱する。(平均45分)

#### 評価方法および評価の基準

教科書1の事前解答の記録を30%、写真情景描写英文の原稿を20%(原稿提出各回を同等に評価)、口頭発表を20%(録音・発表の各回を同等に評価)、まとめの成果を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーには、2つの教科書の問題の一部も含め、グループの講評も簡単に記録できるようにし、写真情景描写作文の1文も書いてもらう。講義・グループワークから気づかされた点は改善し、次回以降に活かすこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

1. 『音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル 資格試験対応』(Essential Listening Skills for College Students\_)、船田秀佳 編著、朝日出版社、本体1,200円。ISBN: 978-4-255-15652-1

2. 『リスニングと語彙のミニテスト [10分間×24回]』(What 's the Picture Saying? -Mini Tests for Listening and Vocabulary-), 李春喜 著, 朝日出版社, 本体1,000円. ISBN: 978-4-255-15430-5

【参考図書】本学「英語音声学」の近年の教科書・推薦書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

リスニングの授業なのに録音？！

そうです。それが近道なのです。

音声学も思い出してください。将来湧き上がるであろう疑問に答えてくれることでしょう。

科目名	アドバンスト・リーディング応用		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	EBh3087		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

文を理解するとは、その中のほとんどの単語が既習で、文中の単語間のまとまりと文法的関係が分かり、複数の語義を持つ語があれば、どれがその文脈に当てはまるかが分かることである。そして、文章を理解するとは、文と文、段落と段落の関係が分かり、話全体の筋道や全体的な意図が分かることである。

教科書の英文を予習の上、クラス全体で一文ずつ音読しながら、「主語はどこ」などの一問一答をしながら読み進めたあと、文章の一部や全体について、ペアや少人数のグループワークで同じ部分の対話的意味確認を再現し合えれば、1人でも初見の文章を読む力がつくことを期待できる。

教員は教科書の各ユニットの文章のキーワードから、これらの単語を含む別の文章を探しておき、クローズテストのような簡単な問題を作って、補充ミニテストとして授業中に複数回実施する。

【グループワーク】【ミニテスト】

##### 到達目標

- (1)教科書の文章の語彙に習熟する。
- (2)語彙レベルの似た初見の文章を対話的に各自読めるようにする。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

#### 内容

教科書のユニット番号と文章のタイトルと文法ポイントは以下のとおりである。

1	1 Mall of America (MOA) 過去分詞の副詞用法
2	2 Denali 不定詞の名詞&形容詞用法
3	3 Get Your Kicks on Route 66 現在分詞形容詞用法と分詞構文
4	4 Stop Bugging Me! 現在分詞形容詞用法と動名詞の違い



5	5 A Story Book Area 関係代名詞が普通の文を説明文に変える
6	6 OMG What Is THAT? 関係代名詞は形容詞の働きをする
7	7 Scrabble 関係代名詞と関係副詞の違い
8	8 Starbucks 原形不定詞を取る動詞
9	9 A Famous Bear このUnit までの復習
10	10 King of the Blues 副詞節の働き
11	11 Empire State Building There+is (are) + S の構文
12	12 Dr. Jonas E. Salk 名詞節と強調構文
13	13 Trick or Treat!! 准動詞と従属節の復習(1)
14	14 Do You Know These Idioms? 准動詞と従属節の復習(2)
15	15 Windsor Castle 准動詞と従属節の復習(3)

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

##### 【事前準備】

教科書の1ユニット分の全問題に解答し、文章の単語の意味と使い方を辞書で調べる。(約60分)

##### 【事後学修】

補充ミニテストが返却されたら、各自対話的に意味を確認すること。

また、テレビのニュースや自然ドキュメンタリー番組に英語音声があれば、それを視聴することでナチュラルスピードに近い英語に親しむ時間をとること。英語の動画も、英語字幕があるものなどを活用すること。(約90分)

#### 評価方法および評価の基準

全部のミニテストの合計点を60%、平常点(授業への参加)を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。  
、【フィードバック】ミニテストの問題を返却するとき、正解率が低かった部分は授業中に解説を加える。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】\_Enjoying American & British Culture Using Grammar

Tips\_ (文法ヒントで楽しむ英米文化リーディング), Richard Carpenter著/森永弘司 著  
(2019), 松柏社. ISBN: 978-4-88198-760-5.

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リーディング応用		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	EBh3087		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

児童教育学科中等教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

#### 科目の概要

アメリカ、イギリス、日本、その他世界の国々の近年の事象を扱った英語の文章を題材に学習します。文章中に登場する構文を学んだ後に文章を読むことで、より早く正確に読むことを目指します。リーディング・スキルとして、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミングなどのリーディングの方法も学びます。ペア、グループ・ワークを通して、理解を確認しながら進めます。

#### 授業の方法（ALを含む）

演習

#### 到達目標

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。
2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。
3. スキミング、スキミングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的、継続的学修

内容

基本的に、1ユニットを1回の授業で完結させる。履修者は、予習として構文の学習を行い、授業の初めに質問の受付と、小テストを行う。その後、本文の読解を行う。ペア、またはグループワークで理解を確認し、疑問が残った場合はクラス全体で確認する。

1	オリエンテーション, U1. Everything's Ducky 構文
2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings

5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（30分）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分）

#### 評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとしておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

科目名	アドバンスト・リーディング応用		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	EBh3087		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

児童教育学科中等教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

#### 科目の概要

アメリカ、イギリス、日本、その他世界の国々の近年の事象を扱った英語の文章を題材に学習します。文章中に登場する構文を学んだ後に文章を読むことで、より早く正確に読むことを目指します。リーディング・スキルとして、スキミング、スキミング、スキミング、スキミングなどのリーディングの方法も学びます。ペア、グループ・ワークを通して、理解を確認しながら進めます。

#### 授業の方法（ALを含む）

演習

#### 到達目標

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。
2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。
3. スキミング、スキミングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的、継続的学修

内容

基本的に、1ユニットを1回の授業で完結させる。履修者は、予習として構文の学習を行い、授業の初めに質問の受付と、小テストを行う。その後、本文の読解を行う。ペア、またはグループワークで理解を確認し、疑問が残った場合はクラス全体で確認する。

1	オリエンテーション, U1. Everything's Ducky 構文
2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings

5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（30分）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分）

#### 評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとしておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

科目名	アドバンスト・ライティング応用		
担当教員名			
ナンバリング	EBh4088		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

#### 科目の性格

共通科目 - 外国語 - 目的別科目である。選択科目であるが、英語教職課程の履修者は必修となる。

#### 科目の概要および

英語でひとつのまとまった内容のエッセイを書く訓練をする。

#### 授業の方法 (ALを含む)

短い英文のモデルエッセイを読み、その論理展開のパターンを学ぶ。そののち、そのパターンに従ってオリジナルエッセイを作成する。

#### 到達目標

- (a) 英文エッセイにおけるパラグラフの概念を理解できる。
- (b) 一文一文を文法的に書くことができる。
- (c) 論理的なエッセイを書くことができる。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

英文のモデルエッセイを読み、英語の論理パターンを学ぶ。授業では、「分類」「手順の説明」「言葉の定義」「意見と理由」「観察と分析」「データの説明」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していく。また教室での演習に加えて、各パターンごとに自宅で課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていく。

1	ガイダンス・Unit 1. Conclusions/Reasons モデルエッセイの説明
2	Unit 1. Conclusions/Reasons オリジナルエッセイの作成
3	Unit 2. Analysis モデルエッセイの説明
4	Unit 2. Analysis オリジナルエッセイの作成
5	Unit 4. Controversy モデルエッセイの説明
6	Unit 4. Controversy オリジナルエッセイの作成

7	Unit 6.Classification モデルエッセイの説明
8	Unit 6. Classification オリジナルエッセイの作成
9	Unit 10. Process モデルエッセイの説明
10	Unit 10. Process オリジナルエッセイの作成
11	Unit 12. Definition モデルエッセイの説明
12	Unit 12. Definition オリジナルエッセイの作成
13	Unit 13. Explanation モデルエッセイの説明
14	Unit 13. Explanation オリジナルエッセイの作成
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】モデルエッセイを読み、その構成を予習する。所要時間45分以上。

【事後学修】モデルエッセイのパターンにしたがって、自分のエッセイを作成する。所要時間45分以上。

#### 評価方法および評価の基準

到達目標それぞれに対する評価方法は(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】受講生のエッセイを添削し、返却します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ（改訂版）』，石谷由美子他，南雲堂，1900円＋税）  
その他適宜プリントを使用する

授業には必ず辞書を持参してください。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・ライティング応用		
担当教員名			
ナンバリング	EBh4088		
学 科	教育人文学部 (E) - 児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無し

#### 実務経験および科目との関連性

無し

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 Students will practice writing in their workbook

s and move from the structure of sentences to the production of paragraphs, through a process approach.

科目の概要 For students to be able to write short discourses in English.

授業の方法 (ALを含む) The teacher will guide the students who wi

ll work at a variety of exercises for understanding writing in their books.

到達目標 For students to be able to recognize and also pr

oduce logical and coherent paragraphs with a topic and development in the paragraphs.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

#### 内容

1	Introduction to the text book and to paragraph writing.
2	Review of the structure of sentences. Recognizing paragraph topics.
3	Identifying and writing topic sentences. Identifying the main ideas in paragraphs.
4	Brainstorming. Editing lists. Developing description.
5	Using maps for brainstorming. Writing concluding sentences.
6	Using adjectives and descriptive vocabulary.
7	Using descriptive vocabulary to write about trends.
8	Learning to do peer feedback.
9	Expressing opinions. Using discussion to brainstorm.
10	Explaining cause and effect.
11	Writing about feelings and problems. Using logical order.
12	Telling stories. Ordering with after, bfore, then, next.



13	Making comparisons.
14	Writing about difficult decisions.
15	Final paragraph. Writing about the future.

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Students should read the lesson in the textbook before the class.

【事後学修】 Students can finish uany unfinished exercises at home.

#### 評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

##### 【フィードバック】

Students will be graded on their in-class engagement with writing; 50%

Students will be graded on two paragraphs written as assesments; 50%

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Paragraph Writing; From Sentence to Paragraph by D. Zemach and C. Islam MacMillan.

##### 【推薦書】

##### 【参考図書】

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

It is essential to try hard and practice a lot to improve writing. Be prepared to write and to rewrite your work.

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	EBj3101		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

##### 科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方に触れながら、「ことば」を科学的に分析するとはどうことかを学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

各分野に関する具体的な言語事象や映像資料を取り上げながら、該当分野の基本的な概念の説明を行う。その後、グループで具体的な言語事象を観察、分析する。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の初めに毎回ミニテストを行い、基本的な概念の定着を図り、具体的な言語事象の分析の練習を行う。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 学修目標（＝到達目標）

- (1) 心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を理解し、口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2) 言語学のいくつかの分野に関する基本的な考え方に触れることを通して、「ことば」を科学的に分析できる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 主体的・継続的学修

#### 内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・ペアワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語学・英語学のめざすもの・国際共通語としての英語
2	言語とは何か(1)：(人間)言語の特性と個別言語としての英語の特性
3	言語とは何か(2)：生成文法理論の考え方（英語のwh疑問文・等位構造制約を例に）
4	言語とは何か(3)：動物の「言語」と人間言語（GuaからKanziまで類人猿に言語（英語）を習得させる実験の歴史と成果）
5	言語の習得<心理言語学(1)>：言語獲得の特性（英語と日本語の資料を例に）
6	言語の習得<心理言語学(2)>：言語獲得に関する諸説（英語と日本語の資料を例に）
7	言語の習得<心理言語学(3)>：言語獲得研究（英語を母語とする子供の言語獲得研究）
8	言語の習得<心理言語学(4)>：各モジュールの習得課程（英語の語彙獲得過程、英語の否定文・疑問文の獲得過程）
9	言語の多様性<社会言語学>(1)：社会言語学の対象
10	言語の多様性<社会言語学>(2)：言語内的要因
11	言語の多様性<社会言語学>(3)：言語外的要因
12	言語の多様性<社会言語学>(4)：言語変化のメカニズム
13	英語の歴史<通時言語学>(1)：古英語から中英語までの音変化・語彙変化・統語上の変化
14	英語の歴史<通時言語学>(2)：中英語から現代英語までの音変化・語彙変化・統語上の変化
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(50分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。(50分程度)

#### 評価方法および評価の基準

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験（40%/70%）、復習テスト(10%/30%)

到達目標(2) 期末試験（30%/70%）、復習テスト(20%/30%)

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	EBj4102		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

この科目は児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学I・II」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

##### 科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論（英語の単語の構造）、統語論（英語の文の構造）、意味論（意味の構造）を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

##### 授業の方法(ALを含む)

各分野に関する具体的な言語事象を取り上げながら、該当分野の基本的な概念の説明を行う。その後、グループで具体的な言語事象を観察、分析する。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の初めに毎回ミニテストを行い、基本的な概念の定着を図り、具体的な言語事象の分析の練習を行う。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 到達目標

- (1) 英語学の中核をなす形態論、統語論、意味論を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学基本的な概念を理解し、口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉え、言語事象を(1)で学んだ知識を用いて観察、分析することができる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 主体的・継続的学修

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・グループワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の特徴
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成過程(造語・借用・逆形成・短縮・頭文字語・混成)
6	形態論(5): 語形成過程(派生・屈折・複合・転換)
7	統語論(1): 統語論とは
8	統語論(2): 文法性の判断
9	統語論(3): 句構造1(構成素・品詞)
10	統語論(4): 句構造2(句構造標識・句構造の型・文の無限性)
11	統語論(5): 文法操作
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか・発話行為・会話の含意
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(50分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。(50分程度)

#### 評価方法および評価の基準

期末試験70%、小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います)30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験(40%/70%)、復習テスト(10%/30%)

到達目標(2) 期末試験(30%/70%)、復習テスト(20%/30%)

【フィードバック】毎回授業冒頭で行う復習テストは翌週に返却する。毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』, 大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編, 研究社, 3500円. 801/G

『文法』, 益岡隆志他著, 岩波書店, 3400円. 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』, 郡司隆男・坂本勉著, 岩波書店, 3000円.

『言語の科学入門』, 松本祐治他著, 岩波書店, 3400円.

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語音声学（子音と母音）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	EBj3103		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

低学年の児童は外国語音声を聞いた通りに再生できる場合があるが、大人である教師は、紛らわしい音同士の構音上の違いを意識して練習することが重要である。理解に基づく自信をもって、伝わり易い英語を指導できるようにする。発音を記憶するための助けとしての文字を、発音と区別することに注意する。

##### 授業の方法（ALを含む）

日本語では区別しないのに、英語で区別される複数の似た発音は、基本的に他者の発話中でも区別できないが、ときどき他者の発音は批評が可能ながある。音の区別が必要になる発音ゲームも利用して、ペアワークやグループワークを行う。【グループワーク】

##### 到達目標

1. 発音記号の表記があれば、英単語を正確に発音できる
2. 子音の分類の3つの切り口を説明できる
3. 母音を記述する3つの切り口を説明できる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定 -5 指導法の工夫 -3 主体的・継続的学修

#### 内容

事前準備の紙をペアやグループで交換しコメントし合った後、教科書の各Quiz・Exercise・Comparisonをペアで発音してききあって直したり、推薦書のゲームをグループで行ったりして進める。

1	音声器官・英語の閉鎖音/p, t, k: b, d, g/
2	英語の/t/の発音・気音
3	英語の鼻音(/m, n/と軟口蓋鼻音)

4	英語の摩擦音 (/f, s, h; v, z/と歯摩擦音、硬口蓋歯茎摩擦音)
5	英語の子音同士の区別 (/s; z/と歯摩擦音、/b/と/v/など)
6	摩擦と破擦の違い (特に/z/と/dz/、有声硬口蓋歯茎音同士の区別)
7	子音字(群)と発音
8	英語の短母音
9	母音字1字と発音 (短音読み・長音読み)
10	英語の二重母音
11	英語の長母音・母音字a, iの大陸読み
12	母音字2字と発音・朗読の録音(1)
13	英語のrの二重母音・朗読の録音(2)
14	音節・半母音・弱母音
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

##### 【事前準備】

1. 上記の各回の内容を教科書から要約し、1段落以上のワードファイル1つに保存する。2回目からは、別の章に加筆する
2. 1に続けて、自分の不得意な発音の語を挙げて、1段落加筆する (以上各回60分)
3. その授業回の部分を印字して持参する

##### 【事後学修】

1. 授業中のパートナーのコメントから、同じ章に1段落加筆する
2. 授業中の活動や講義に関する感想も、同じ章に1段落加筆する
3. 難しく感じた発音を教科書の音声で練習 (以上各回60分)

#### 評価方法および評価の基準

##### 【評価方法】

到達目標1の理論の筆記試験を10%、その録音課題を20%、  
 到達目標2の理論の筆記試験を20%、その録音課題を10%、  
 到達目標3の理論の筆記試験を20%、その録音課題を10%、  
 その他、授業での参加度を10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】配布された録音課題の台本の行間等にメモ書きしたものを提出していただき、コメントを加えて授業中に返却する。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】新装版『英語音声学入門』(音声CD付), 竹林滋 / 斎藤弘子 (2008), 大修館書店.

【推薦書】\_Clear Speech, 4th Edition\_, Student's Book with Integrated Digital Learning: Pronunciation and Listening Comprehension in North American English, (Judy B. Gilbert 著、Cambridge University Press; 4版 (2017)、ISBN: 978-1108659338).

\_English Pronunciation in Use, Intermediate Book\_, with Answers and Downloadable Audio (Mark Hancock 著、Cambridge University Press; 2版 (2017)、ISBN: 978-11084036).





科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	EBj4104		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

英語のイントネーションは、「語句のまとまり付け・焦点位置選択・ピッチ変化の形の選択」に分解すれば、意識的学習が可能となる。「イントネーションは、ほぼ、言語一般に普遍的である」と言う人は多いが、個々の言語には独特で多用されるパターンも存在する。外国語を流暢に使うには、パターンが身につくよう練習量をこなすだけでなく、母語との対照により分析的に理解することも有用である。

##### 授業の方法（ALを含む）

童話の朗読など、良いお手本音声の特徴的な短い部分を抜き出して、内容のみ考えつつ自動的に発音できるまで繰り返し練習する。クラス全体のコーラスリーディングで英語らしい語り方ができるようになったら、ペアワークでチェックしあう。2往復程度の会話も同様の順番でコーラスリーディングとペアワークを行う。

##### 到達目標

1. 英語の音節を日本語の拍と区別して発音できる
2. 複合語アクセントと句アクセントを区別して発音できる
3. 文脈に応じて、適切な単語に焦点を当てて発話できる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 学習内容・学習活動の設定    -5 指導法の工夫    -3 主体的・継続的学修

#### 内容

教科書の後半部分の各Quiz・Exercise・Comparisonのみでは飽きやすいので、児童英語で使われている早口ことば・中学校の教科書の例文・英語の歌・朗読音声のついた絵本などのお手本を補充する。

この科目の教科書・その他からのお手本音声から、特徴のよく表れた短い語句などを選んで、クラスのコーラスリピーテ

イングを数回繰り返した後、ペアで助け合って発音を教えあうことによって確実に身につける。

下のリストの内、2以降は教科書の後半の内容であり、これを進度の目安として使う。

1. 個々の音（子音・母音）についての概観
2. 英語の音節とは
3. 英語の子音連続内の半母音の発音
4. 暗い//の発音
5. 鼻腔開放・側面開放
  
6. 単語間のつながり
7. 弱母音
8. 脱落・同化
9. 複合語アクセント・句アクセント
10. 音調群
  
11. 上昇調の音調群
12. 下降調の音調群
13. 下降上昇調の音調群
14. 特殊なイントネーション
15. まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の例文（例語でなく）や配布資料の文（章）を一文ずつドリル音読すること（各回の授業に対して45分）

#### 【事後学修】

1. 普段から、英語の映画やテレビの英語音声を聴く時間を割く習慣をつけること。
2. 録音課題があるときは、自然に話せるまで長時間練習する。（平均各回あたり60分）

#### 評価方法および評価の基準

#### 【評価方法】

到達目標1の理論の筆記試験を10%、その録音課題を20%、

到達目標2の理論の筆記試験を10%、その録音課題を20%、

到達目標3の理論の筆記試験を10%、その録音課題を20%、

その他、授業での参加度を10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 【フィードバック】

配布された録音課題の台本の行間等にメモ書きしたものを提出していただき、コメントを加えて授業中に返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子（2008），新装版『英語音声学入門』（音声CD付），大修館書店。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教員も学生のほとんども母語が日本語なので、日本語のようなリズムとイントネーションをした英語の方が分かり易いのは当たり前と言えます。そのため、ネイティブやバイリンガルな教師の方が圧倒的に有能になるのですが、理論的発見（質）

と練習量の両方で、お互いそれぞれの望む流暢さを目指しましょう。英語教員のイントネーションが自然になれば、もっと大事な事柄が児童・生徒に伝わりやすくなると思います。

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	EBj2105		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

##### 科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

##### 授業の方法（ALを含む）

学生には毎回授業の初めに担当箇所の説明や考察をPPTを使用して発表してもらう。その後、付加的な解説を教員が行い、課題についてグループワーク、ディスカッションを行う。教材や課題はハンドアウトと学内フォルダで提示する。授業の終わりに記入するリアクションペーパーで出た質問は、次回冒頭で共有、解説する。【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

##### 到達目標

- (1)ことばとは何かを知るため、まずは母語である日本語を観察し、次にそれを英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に口頭で述べたり、文章で説明することができる。
- (2)ことばの音は文字と同じではないことを知り、発音と正書法の間を日・英それぞれで比べ、言語音声一般に関する基本事項を口頭で述べたり、文章で説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 学習内容・学習活動の設定      -1 他者との協働、役割・職務遂行      -3 主体的・継続的学修

#### 内容

レポーターの学生の発表、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

1	ガイダンス：向後
2	語のしくみ（いろいろな意味を持つ言葉・同じ読み方の漢字）：向後
3	語のしくみ（似た意味の言葉・和語・漢語・外来語・反対の意味の言葉）：向後

4	語のしくみ(なかまの言葉と漢字・熟語の意味と成り立ち)：向後
5	語のしくみ(複合語)：向後
6	日本語の文字(文字の機能と歴史・筆順)：設楽
7	英語の文字(大文字小文字・筆記体等)：設楽
8	発音と文字とのずれ(日本語特殊拍・歴史的かな遣い)：設楽
9	発音と文字との対応関係(英語フォニックス)：設楽
10	発音を辞書で調べる(日本語の語アクセント・英語のCUBE等)：設楽
11	発音で語句のまとまりを示す(日・英の複合語や語句の高低/強弱)：設楽
12	文のしくみ(言葉を分類する・主語と述語)：向後
13	文のしくみ(ようすをあらわすことば・修飾語)：向後
14	文のしくみ(文の組み立て・ことばの法則と例外)：向後
15	まとめ(音声・ことばの規則性に関する考察)：設楽

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の資料の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】授業で使ったパワーポイント・資料は授業用フォルダに保存しておくので各自確認すること(1時間程度)。授業内でスマホを使用したパワーポイントの撮影は認めない。

#### 評価方法および評価の基準

・期末課題70%、平常点(課題・授業への参加度・授業内の発表)30%、とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1) 期末試験(35%/70%)、平常点(15%/30%)

到達目標(2) 期末試験(35%/70%)、平常点(15%/30%)

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【参考図書】

大津由紀雄・窪園晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会, 1600円+税.

国際交流基金(2009), 日本語教授法シリーズ第2巻『音声を教える』, ひつじ書房, 1500円.

松香洋子(2008), 『フォニックスってなんですか?』, mpi Inc., 1800円.

ジョリーラーニング社著・山下桂世子訳(2017), 『はじめてのジョリーフォニックス ティーチーズブック』

小学校『国語』, 光村図書出版.

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	榊原 理枝子、落合 真裕		
ナンバリング	EBk3106		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修です。

\* 中高英語教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」（前期開講）・「英米小説と女性」（後期開講）の2科目を両方必ず履修してください。

\* 教職課程を履修していなくても受講できます。

##### 科目の概要

英米文学の理解には、英米文学史の理解は必須ですから、この授業では英米文学の流れ、つまり英米文学史の知識を習得してもらいます。

##### 授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、英米文学史や文学作品の知識を問う小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】また、文学作品に対する意見や感想などをレポートとして発表してもらいます。【レポート（表現）】

##### 到達目標

- (1)英米文学史の知識を習得して、それを説明したり、表現したりできる。
- (2)英米文学への造詣を深め、それを説明したり、表現したりできる。
- (3)英米の文学作品と取り組み、そして考察し、それを表現できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

-3主体的・継続的学修

#### 内容

##### (授業の方針)

- (1)テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2)定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3)就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4)出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5)テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。（実施後正解を配布するため。）また、課題での代替もできません。欠席しないように注意。（ただし実習などの場合は別。）
- (6)授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

## (授業の内容)

I:文学は歴史、社会、文化と密接に関わっており、英米文学史を学ぶことによって英米文化圏について知ることができます。狭い意味での文学だけではなく、英米文化全般に関心があれば、教職履修者でなくても学ぶ喜びを感じられると思います。

II:1回目から6回目はアメリカ文学史を、7回目から15回目はイギリス文学史を学びます。

III:授業予定（学生の関心等により、以下の授業予定、扱う作家や作品、順番などを変更することがあります。）（

1回目)ガイダンス:英米文学と英米の歴史、アメリカ文学黎明期(2回目)Franklinなど(3回目)Poe,

Hawthorneなど(4回目)Melville, Twainなど(5回目) Dickinson, Dreis

erなど(6回目)Fitzgerald, Faulkner, Salingerなど。映画『フォレスト・ガンプ』

を見て、アメリカ1950年代以降の歴史やアメリカ的なメンタリティを概観。(7回目)イギリス文学導入、Chau

cerなど(8回目)Shakespeare(9回目)Milton, Pope, Defoe, Swiftなど

(10回目)Fielding, Blakeなど(11回目) Wordsworth, Coleridge, S

helley, Keatsなど(12回目) Austen, Dickens, Thackeray, Bront

?, Carrollなど(13回目)Hardy, Wilde, Conrad, Shaw, Kipling,

Yeatsなど。また、16世紀から20世紀までのイギリス文学史をヴァージニア・ウルフ『オーランドー』とその映画

化作品に見る。(14回目)Joyce, Woolf, Lawrence, T. S. Eliot, Forst

erなど。+まとめ。(15回目)Maugham, Orwell, Greeneなど。+総復習。

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)教科書の指定箇所、プリント等の課題を授業前に勉強。小テスト、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)教科書、プリント等を読んで復習。また、返却された小テストの復習。今後に備える。授業に出てきた英語表現も覚える。(各授業に対して45分以上)

\*教科書には文学作品の引用などがありますし、また英文のプリントも配付します。事前・事後学習は英語の勉強と同じと考え、一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。まり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

## 評価方法および評価の基準

到達目標(1)(2)について

英米文学史、英米文学に関する授業中の発表。=>10%

小テスト、定期試験で英米文学、英米文学史についての知識を説明、表現する。=>60%

### 【フィードバック】

\*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に生かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

\*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験終了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(3)について

文学作品に取り組み、考察し、レポートにまとめ授業内で発表する。=>30%

### 【フィードバック】

授業内でコメントを行います。場合によっては再度やってもらうこともあります。

(単位取得について)

\*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

\*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位

は取れません。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

(教科書) 福田昇八『イギリス・アメリカ文学史』（南雲堂、本体価格2,600円=>一生使える良書でこの価格はお得。フジショップで買ってください。万が一品切れの場合はフジショップで注文してください。ISBN4-523-29179-9)

その他、データ配布教材、プリント等。

(推薦書など) 授業で指示。

(その他) 英米文学史の授業なので辞書は毎回必要。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

(重要) 2回目授業から原則毎回小テストを予定。履修を決めたらすぐ教科書を買ってください。万が一教科書が人数分入荷しないなどのことがあれば、小テストは3回目授業以降。その場合はLive Campusで連絡します。

(その他の注意)

(1) 体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。

(2) Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。

(3) 詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。

(4) 授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。



科目名	英米小説と女性		
担当教員名	榊原 理枝子、落合 真裕		
ナンバリング	EBk3107		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修です。

\* 中高英語教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」（前期開講）・「英米小説と女性」（後期開講）の2科目を両方必ず履修してください。

\* 教職課程を履修していなくても受講できます。

##### 科目の概要

英米小説、そしてそれを取り巻く歴史や文化などに関する知識を習得してもらいます。ただし、「英米小説」というテーマはあまりに大きいので、この授業では「女性」という観点から英米小説に取り組んでもらいます。

##### 授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に発表などをしてもらったり、レポートなどを発表してもらいながら授業を進めます。【レポート（表現）】

##### 到達目標

- (1) 英米文学における「女性」についての理解を深め、それについての意見を表現できる。
- (2) 文学とジェンダーについての理解を深め、それについての意見を表現できる。
- (3) 英米小説と女性というテーマに向き合い、各自が発見した問題意識に取り組むことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

-3主体的・継続的学修

#### 内容

##### (授業の方針)

- (1) テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2) 定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3) 就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4) 出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。
- (5) テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。（実施後正解を配布するため。）また、課題での代替もしません。欠席しないように注意。（ただし実習などの場合は別。）
- (6) 授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

## (授業の内容)

I: 英米小説を「女性」という観点から学ぶ際に看過できない問題である社会、家族、恋愛、結婚、相続などを考慮して、主にジェイン・オースティン『高慢と偏見』（『自負と偏見』の訳もある）とシャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』を取り上げます。それぞれの作品の映像化作品も見て、理解を深めてもらいます。英米文学やジェンダー的問題に関心があれば教職履修者でなくても学ぶ喜びを実感できると思います。

II: 1回目から8回目までは主に『高慢と偏見』を、9回目から15回目までは主に『ジェイン・エア』を扱います。それぞれの作品は、抜粋をプリントで配布して読みます。

III: 授業進行予定（学生の理解度や関心に依じて以下の予定を変更することもあります。）

(1回目) ガイダンス：英米文学と女性について。『高慢と偏見』への導入。(2回目) オースティンについて。相続と女性。ベネット夫妻とベネット5人姉妹。(3回目) 恋愛、結婚と女性。長女ジェインの恋。(4回目) 相続と結婚。(5回目) 当時のイギリス社会における結婚と女性。(6回目) 誤解と行き違い。高慢、自負がどう変わるか。(7回目) それぞれの成長。映画化作品『プライドと偏見』(2005)を見て、当時の人々の生活や服装などを映像で見せよう。(8回目) 『高慢と偏見』最終章。登場人物たちのその後。(9回目) 『ジェイン・エア』導入。孤児ジェインの不遇な少女時代。(10回目) ジェインと学問。女性の自己実現と当時のイギリス社会。(11回目) ガヴァネス(住み込み家庭教師)について。(12回目) ジェインの恋。BBCドラマJane Eyre(2006)(シラバス上では表示できませんがタイトルのJane Eyreはイタリック)を見て、建物などを映像で見せよう。(13回目) ヴィクトリアニズムについて。(14回目) ジェインの選択。まとめ。(15回目) 『ジェイン・エア』最終場面。女性と英米小説、総復習。

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習) 配付した授業資料などを授業前に勉強。発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習) 配付した授業資料、プリント等を読んで復習。また、授業に出てきた英語表現も覚える。(各授業に対して45分以上)

\* 授業資料には英文もありますし、また英文のプリントも配付します。事前・事後学習は英語の勉強と同じと考え、一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

## 評価方法および評価の基準

### 到達目標(1)(2)について

英米小説における「女性」に関する理解、また文学とジェンダーに関する理解を授業中に発表。=>10%

英米文学における「女性」についての知識、また文学とジェンダーに関する知識を、定期試験で説明、表現する。=>60%

### 【フィードバック】

定期試験は最後から2番目の授業で実施、最終週には返却、解説。

### 到達目標(3)について

文学作品に取り組み、考察し、レポートにまとめ授業内で発表する。=>10%

授業期間終了後にこれまでの学習を振り返りつつ、各自が文学作品に向き合い、それをレポートにまとめて提出する。=>20%

### 【フィードバック】

授業中の発表については授業内でコメント、授業期間終了後のレポート作成に生かしてもらいます。

### (単位取得について)

\* 上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

\* 単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位は取れません。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）Jane Austen, *Pride and Prejudice* / Charlotte Bront

?, *Jane Eyre*の抜粋プリント。（シラバス上で表示ができませんが、タイトルの*Pride and Prejudice*と*Jane Eyre*はイタリック。）その他、データ教材、プリント等を配布。

（推薦図書）授業内で適宜紹介

（その他）英文を読むので辞書は毎回必要。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1)体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2)Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。
- (3)詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4)授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	EBI2108		
学 科	教育人文学部（E）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修です。

多文化共生、異文化間コミュニケーションに関する基礎的な内容を学びます。

異なる文化的背景を持つ人々とお互いに認め合いながら理解し合う方法について考えることを通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付けます。

##### 科目の概要

近年、日本に住む外国人の数は増加し、コンビニや飲食店の店員として、学校のクラスメイトとして、地域の隣人として、文化的背景が異なる人とともに暮らしていくことが日常になりました。異なる文化的背景を持つ人々がお互いを理解し、尊重しあいながらともによりよい社会を作り上げていくにはどうすればいいのでしょうか。

本科目では、日本における多文化共生の現状と、取り組みを紹介し、それを踏まえて自分の考えをまとめたり、グループで課題への解決法をディスカッションしたりします。また、異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションについて、事例を挙げながら、どのようにすれば互いに理解し合い、伝え合うことができるのかをグループで考えます。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義による事例紹介をもとに、グループでのディスカッションなどを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート（表現）】

##### 到達目標

1. 多文化共生についての知識を深め、日本社会の現状と課題を理解し、解決策について自分の考えを持つ。
2. 自分と異なる文化的背景を持つ人とお互いに理解しあい、意思疎通するための方法についての知識を深め、身近なところから実践できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1他者との協働、役割・職務遂行、
- 3主体的・持続的学修

## 内容

1	オリエンテーション
2	多文化共生社会とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	多文化共生社会への取り組み【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
4	異なりを考える1 「人」ってだれのこと？【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	異なりを考える1 郷に入っては郷に従え？ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	異文化摩擦が起きるとき【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	異文化理解とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	コミュニケーションスタイルを決めるもの【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
9	言語コミュニケーション1 褒める・謝る【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	言語コミュニケーション2 断る・自己紹介【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	非言語コミュニケーション1 表情・アイコンタクト【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	非言語コミュニケーション2 ジェスチャー・しぐさ【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	異文化コミュニケーションスキル【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	言語の平等性【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
15	まとめ【レポート（表現）】

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書や授業使用パワーポイントデータ、配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A4 1枚以内にまとめる。（各授業に対して45分程度）

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA4 1枚程度。（各授業に対して45分程度）

## 評価方法および評価の基準

到達目標1：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

到達目標2：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】八代京子・世良時子「日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル」（三修社）2,200円＋税  
その他、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など